

KODAK Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10



KODAK Color Control Patches ©Eastman Kodak Company, 1997
Black 3/Color White Red Magenta Yellow Green Cyan Blue

Centimetres



表紙 11 L10001

武外古社考證 郡中之部

谷

冊次	冊數	番號	種別	架號
壹六	壹七	壹壹	武外	壹壹

十五

京都府 圖書印

380



目錄

乙訓郡式外古社二座

離宮八幡宮

葛野郡式外古社八座

祇花園神社

八幡社

御霊社

車折神社

愛宕郡式外古社八座

長岡天満宮

敷地神社

御霊社

野宮社

六孫王神社

今宮社三座

赤山神社

岡崎神社

以上

新熊野社

江文神社

幡枝八幡宮

離宮八幡宮

乙訓郡式外古社

京都府文庫

祭神男山同体

社説酒解神ヲ相殿ニ祭ルト云ルハ恐ハ然ラス

○同郡山崎荘ニ

在ス當社上申書及繪圖ハ式内酒解神社ノ下ニ出タリ

按ルニ當社田社領凡千石ニ近ク社殿頗ル美麗ナリ

シカ去ル戌辰ノ兵乱ニ回祿シテ今頗ル矮陋タリ

遷座

類聚國史貞觀元年二月二十二日帝感靈夢勅大安寺行

教祭豊前宇佐宮教住彼宮一夏九旬教感瑞夢貞觀元年

七月廿三日祭宇佐宮八月廿三日着山背國山崎此夜有

京都府

兩道光由此奏之九月十九日勅木工寮権允良基遷坐山

崎男山兩處各涌出清水於石門故曰石清水





乙訓郡式外之社

長岡天満宮

祭神明也○同郡岡田村ニ在ス其社上申書及
繪圖ノ後ニ附

按ルニ當社曾テ挂宮ノ鎮守ニシテ風景當郡ニ秀テ
タリ

京都府



香樹軒刻

長岡天満宮取調書

乙訓郡茅渚区開田村
長岡天満宮祠堂
中小路宗脩



魚都府山城國七訓郡栗真區潤田村

長岡

天滿宮

別紙在之

年月不詳

一 例祭日

曰九月朔乃云々又此祭(七条ヨリ)神武祭日也(心相改申後)

一 本社

建坪貳拾坪

拜殿

曰九坪

神樂所

曰四坪

繪馬舎

建坪八坪

神供所

曰拾坪半

神庫

曰七坪

連歌所

曰拾貳坪半

誥所

曰貳拾五坪半

末社

曰三坪

春日囃社宮

一 舊及別

或指三町六反九拾貳步重

一 現境

及別五町貳反貳拾五步

一 舊社領

現末五拾石

香梅野村

元禄九年十月從 京都宮永代御寄附

一氏子

百貳拾七戸

但開田村一村限之座後

一自該廳距離

京都府より 三里拾八町

古之通 相違無其座後以之

乙訓郡茅取區開田村

長岡天満宮初等

明治八年

中小路宗脩

戸長 丸富勘多衛

區長 岡本三郎平



京都府権知事模村正直殿

香濱軒刻

長岡天満宮縁記

山城國乙訓郡長岡の社古くは傳傳て
長岡は社とも見返天神とも宗之奉り
り其境地深遠して世の産を懸て宮
居幽穆して威嚴ありはる備り
尊像は菅原の氏族中山路宗廣と云るか
鎮座し奉りたり猶ほけき寸八方
其容ありこそとてさるるま
まのま中山路の家は源之宗之奉り
しよの宗之重祐と敬起まると元祿

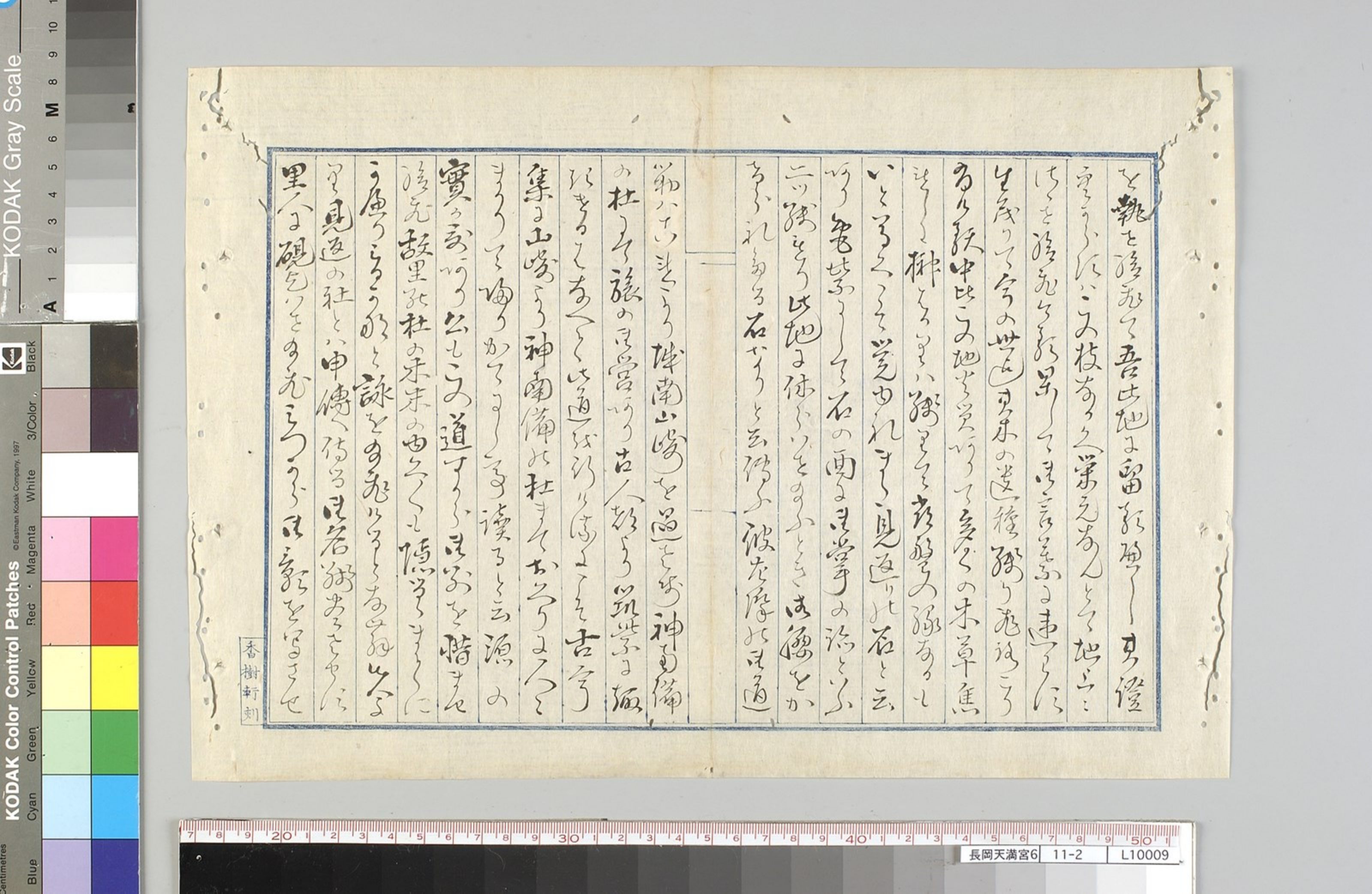
三年の春

勅しりて正しくは社内を遷座し
奉りたりと云ふ像同く之を
りは往昔寛平の代中山路宗則
東山路祐房と云ふ家何と云ふ
して此地にまはり帝は之を奉り
四年のま公孫紫よ遷座すと
隨てりる此の家より新都を出
治次ありは長岡よまはり
別を惜みまはりるま悲の餘り
直一柳の枝

香樹軒刻

と執と流るる吾は地は留新野々一其後
 ありしに二又枝あり之業えあるとて地と
 けと流るる新野々々言をふと事とに
 け成りて今の世に草木の邊に流るる
 あり秋中此の地を穿りて多々の木草焦
 けし種とありし流るる新野々の流るる
 いとるるてて是れす見返り此石と云
 けし新野々々石の面は是等々の流るる
 二ッ流るるは地は体なりと云は流るるか
 ちふれあり石と云は流るる新野々の流るる
 新野々の流るる神南備の流るる神南備
 の杜の流るる流るる古の流るる流るる海
 けきるるちありし流るる流るる古の流るる
 集り山崎の流るる神南備の流るる古の流るる
 けし流るる流るる流るる流るる流るる
 實り交りて公とて道の流るる流るる
 流るる故里の流るる流るる流るる流るる
 けし流るる流るる流るる流るる流るる
 けし見返の流るる流るる流るる流るる
 里の流るる流るる流るる流るる流るる

香樹軒刻



KODAK Gray Scale
 A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10
 Black
 3/Color
 White
 Red
 Magenta
 Yellow
 Green
 Cyan
 Blue
 Kodak Color Control Patches © Eastman Kodak Company, 1997
 長岡天満宮6 11-2 L10009

まふしはるゝの三氏の筑紫道見送奉り
都に帰る身を物とも思ひ多に朝夕配所乃
は住居を歎ふ悲しむ宮仕へ侍りし歌
志かへつれども都府樓唯看月色観音寺
唯聴鐘聲と詩に作る勢のふ程の忠を
多きはあつたは慮りこれ世の憚り我覚し
先して三氏に帰る路のま條を流るる身を
事なむぬ離別乃思ひしはに思ひ急し
は父寺守分のおま答をまもり帰るの表し
とてうへありし身も思ひの思ふまのり
作言のふたつわらふ六力よ及びに免か
都に登るわらふふあふんし其後三氏
ハ仁和寺より通るは家よ仕へ侍りし世
の時移つて西小路東小路の二家の路
をりし中小路の末まふ枯くし浅く
代に世は守護し身をまもる神を
くしきなく長りし身を覚ゆる中小路の
家より代に世は守護し身をまもる神を
疎くしそふり歌天正に頃あし山崎の乱
れに近きしころの石も備毫さの構

香樹軒刻

KODAK Gray Scale



3/Color

White

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10

Centimetres



長岡天満宮7 11-2 L10010

取運をりし中山路何し見返の石とて
しををりし之思はく地と語成跡の埋
見をりし何のふと云ふもふに日磨
ひも蹟の未立しをりしおありたるは
あらし今身跡を西の海の森と云はれ
世々の云祝は社名の記跡中山路のあり
傳へ來りしある事をもてしりくも
何とてし昔の徴とてありしよも
あしぬし元和の頃ほ飛らる此
八条宮智仁親王の法額と成延寶四年

は本社末社多しに遠宮なり元禄の
こよは家のみ福號 常盤井宮と改り
り紅の二年の冬神鏡の繪圖

仙洞はありしは元禄二年正月
成御所より清水谷梅小路東園の三卿
以列密のそは社の縁起を著し書し
は宗信の一族伊勢國安濃津孫事
は仕へたる中山路五節右京門の科
は物まつしきし多しなり

香樹軒刻

五良右馬門一類齋藤花門一科よりは社の事
書多し物を奉りて三月三日二月宗信奉り
は社の境内に依殿を建かみ吉守八分此
は社を遷し奉りて又よりは奉り社造
営始まる三月十日の夜且剋外遷宮
より吉田三位并神人三拾人神子八人
諸に清み谷行内東園梅小路唐橋清
園と秋魚

以下脱文

祿賜りぬ是より度々は其意を承り
氏の御目と起ししを承りて御言を奉
り西目牙子餘也承りては三月新
多に連交所を建りて百韻の連歌を
ちぬ受むる楮苗代並都はさすり
曰三月はは社の境内に右の多し物を建
れ八幡春の日の小祠再興ありて六月
院使はみ生日月御震鞠額はみ哉
元祿九年一月領乃日名改りて京極宮と
申奉りて十月は社頭五拾石永代は寄

香樹軒刻

五良右衛門一類齋藤左門の御事は社の事
書多し物を奉りしる日二月宗信奉り
は社の境内に依殿を建かみ寺守八分此
は社を遷し奉りて又奉りて奉りて社造
営始まる日三月十日の夜且刻外遷宮
つり吉田三位并神人三拾人神子八人
諸口清み谷行内東園梅小路唐橋清
園公秋魚

以下脱文

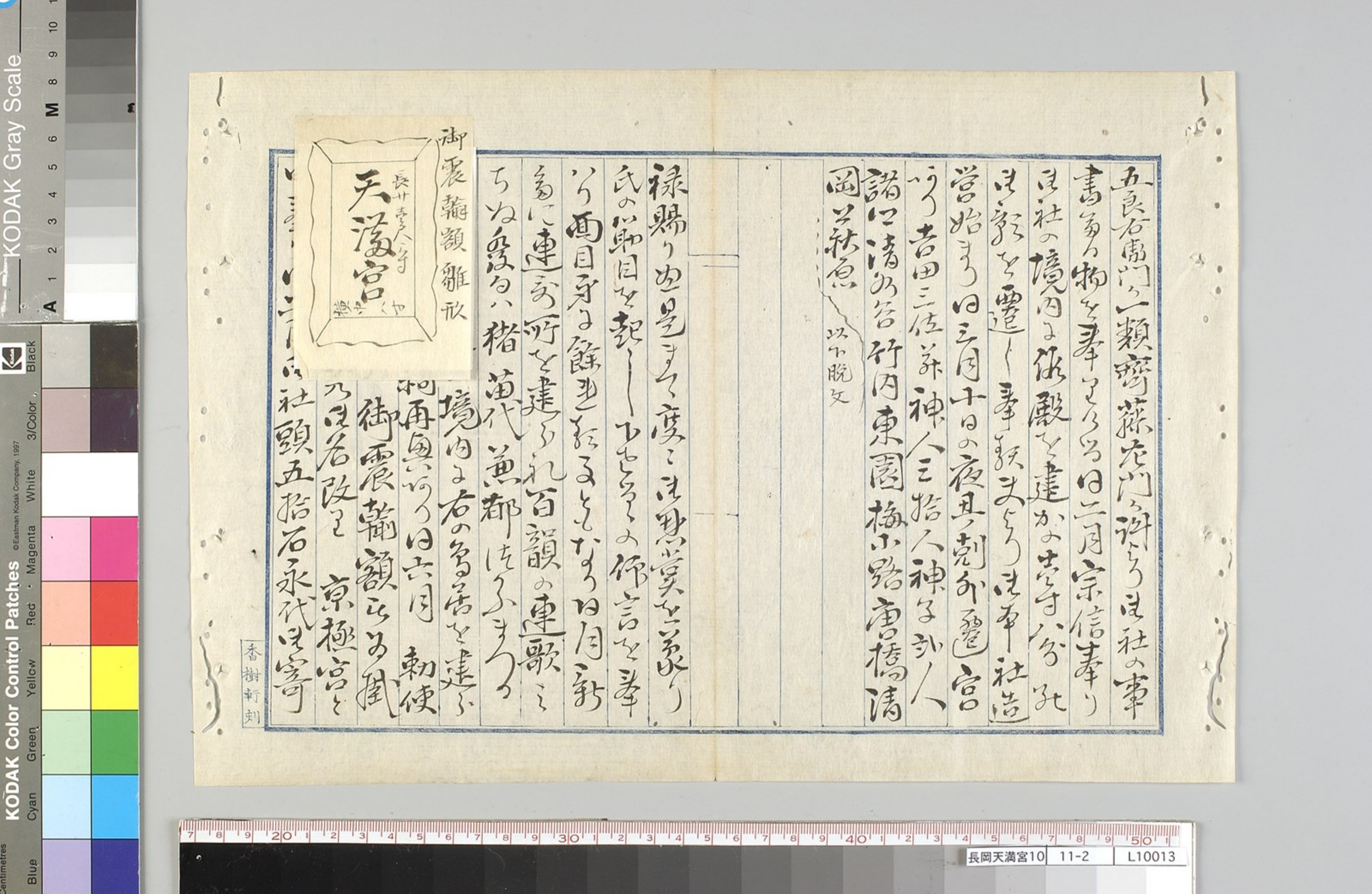
祿賜りぬ是より度々は無量を蒙り
氏の御目を起ししとて言を奉
りし面目より餘りたるも日新
多に連交所を建りし百韻の連歌
ちね受るハ楮蒲代並都はふま

御震鞠額雛歌

長廿五年八月
天満宮
御震鞠額雛歌

境内より右の多るを建不
和再興あり日六月 勅使
御震鞠額はみ哉
乃日名改と 京極宮と
社頭五拾石永代は寄

香樹新刻



附所の日十五年ハ廿御神八百年ノ當也
此野を初見奉り國々所々勸請の
社木のく多満久神事を修せり
就中此長岡の良社ハ 上より
二月十日より廿五日迄萬燈會と
行ふ其の嚴重なる記數あり
有り西洞院中納言時成卿ハ
此の事自らこの連歌を奉り
此の先は徳寺社のみ後日
證しよ成ると書付く先
此の世に散り
其の縁起に可るに設置あり

元禄十五年壬午歲五月日

香樹軒刻

KODAK Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10

Black

3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

KODAK Color Control Patches

©Eastman Kodak Company, 1997

7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1

長岡天満宮11 11-2 L10014

例祭 年行事

正月

朔日

御神供 身曾差鞍 十座

奉幣 上津鞍 十座

後祝詞 中臣鞍 二座

六根清淨鞍 二座

三種大鞍 百座

二日

御神供 奉幣 後祝詞

三日

御神供 奉幣 後祝詞

七日

香樹軒刻

三種大後

十二座

六根清淨後

二座

後祝詞

中臣後

一座

奉幣

上津後

二座

御神供

身曾足後

三座

廿五日

法味

十八日

御神供

奉幣

後祝詞

立春

御神供

奉幣

後祝詞

十五日

御神供

奉幣

後祝詞

香樹軒刻

香樹軒刻

身曾坐鞍

二座

御神供

奉幣

鞍祝詞

朔日

二月

三種大鞍

十二座

六根清淨鞍

二座

中臣鞍

二座

上津鞍

二座

鞍祝詞

身曾坐鞍

三座

御湯

御神供

奉幣

吉日

上津後

二座

中臣後

二座

六根清淨後

三座

三種大後

十二座

五日

御神供

武射三祭

奉幣

後祝詞

身曾共後

二座

上津後

十座

中臣後

二座

六根清淨後

一座

三種大後

百座

香樹軒刻

朔日

三月

三種大鞍

十二座

六根清淨鞍

一座

鞍祝詞

中臣鞍

一座

奉幣

上津鞍

二座

御神供

身曹炎鞍

三座

御湯

天神講式

御神供

奉幣

鞍祝詞

廿五日

法味

十八日

香樹新刻



御神供 奉幣 後祝詞

身曾爰後 三座

上津後 二座

中臣後 一座

六根清淨後 一座

三種大後 十二座

廿五日

御神供 奉幣 後祝詞

四月

御神供 身曾爰後 二座

奉幣 上津後 二座

香樹軒刻

後祝詞 中臣後 二座

六根清淨後 三座

三種大後 十二座

廿五日

御神供 身曾後 三座

奉幣 上津後 二座

後祝詞 中臣後 一座

六根清淨後 一座

三種大後 十二座

五月

朔日 御神供
五日 御神供

香樹新刻

奉幣

奉幣

後祝詞

後祝詞

社頭蓬苜蒲苜中事

十八日

法味

廿五日

御神供

奉幣

後祝詞

六月

朔日

御神供

身曾共後

一座

奉幣

上津後

十座

後祝詞

中臣後

一座

香樹軒刻

六根清淨後

三座

三種大後

百座

十八日

法味

御神供

奉幣

後祝詞

天神講式

御湯

奉幣

後祝詞

晦日

小姜御神供

奉幣

後祝詞

身曾美後

三座

上津後

三座

中臣後

二座

六根清淨後

一座

香樹軒刻

三種大禊

十二座

七月

朔日

御神供 奉幣

禊祝詞

七日

御神供 奉幣

禊祝詞

八月

朔日

御神供 奉幣

禊祝詞

四日

御神供 身曾安禊

十座

奉幣 上津禊

十座

禊祝詞 中臣禊

二座

香樹軒刻

KODAK Gray Scale

Black

3/Color

White

Magenta Red Yellow Green Cyan Blue

Centimetres

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10



長岡天満宮21 11-2 L10024



六根清淨鞍

二座

三種大鞍

百座

天神講式

廿五日

御神供

奉幣

鞍祝詞

九月

御神供

奉幣

鞍祝詞

十八日

法味

廿五日

御神供

奉幣

鞍祝詞

吉日

香樹軒刻

御湯 御神供 奉幣 後祝詞

御神供 十月 奉幣 後祝詞

御神供 廿五日 奉幣 後祝詞

御神供 十一月 奉幣 後祝詞

御神供 九日 奉幣 後祝詞

身曾差後 十座

上津後 十座

中臣後 二座

土根清淨後 三座

香樹軒刻

KODAK Gray Scale

Black

3/Color

White

Magenta Red Yellow Green Cyan Blue

Centimetres



三種大後

百座

十八日 御火焚

御神供 奉幣 後祝詞

廿五日

御神供 奉幣 後祝詞

御神供 奉幣 後祝詞

十二月八日

御神供 奉幣 後祝詞

中小路家より如例調達事

身當日貴後 十座

上津後 十座

中臣後 二座

香樹軒刻

六根清淨後

二座

三種大後

百座

十五日

御神供

奉幣

後祝詞

晦日

御神供

奉幣

後祝詞

節分

御神供

奉幣

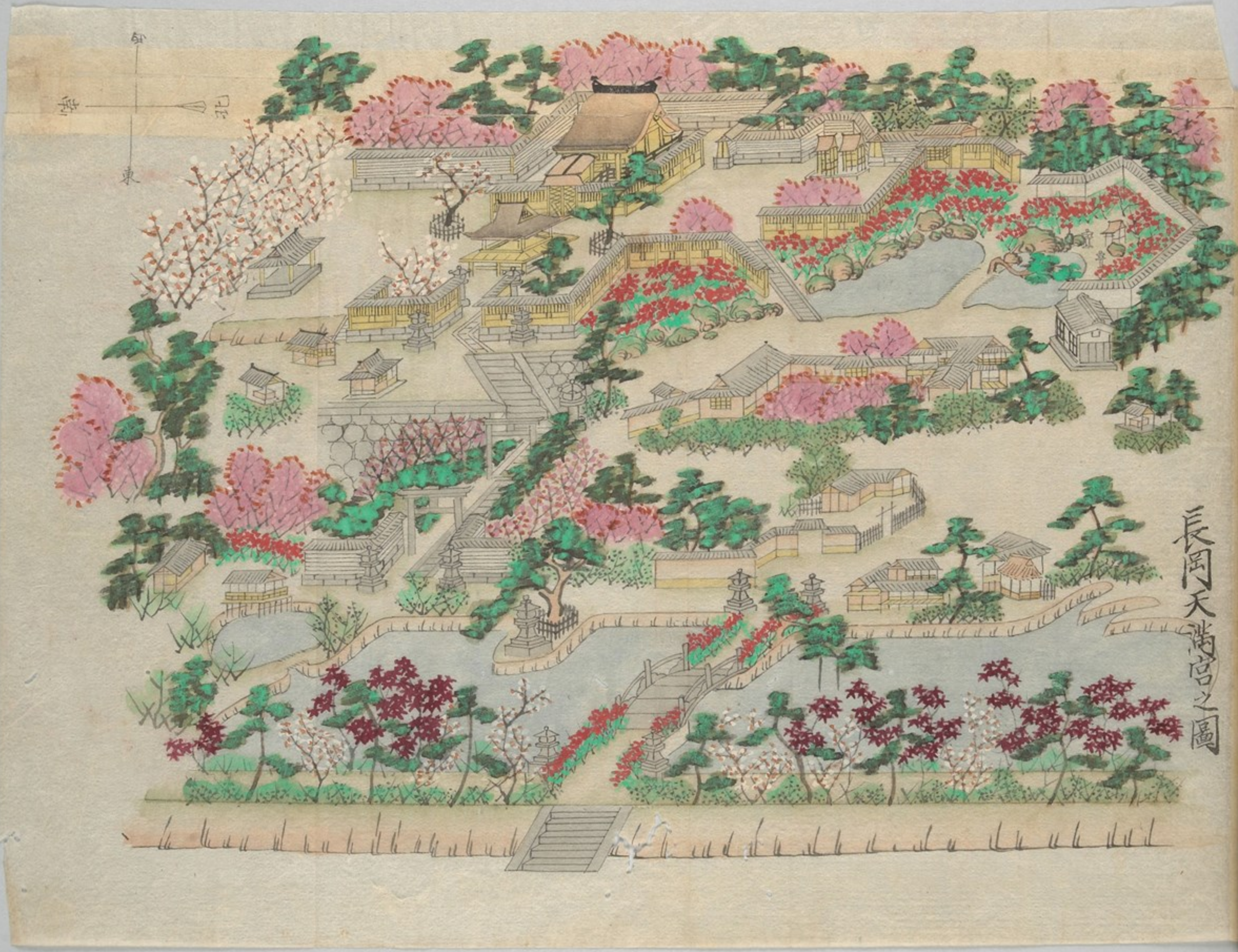
後祝詞

元禄三年五月廿六日

右祭奠之次第

靈元聖皇所定而使權中納言時成卿書之
納於當社者也且是故恐其久而差也
書之於版而揭於齋用舎社司等謹
而勿怠云

香樹軒刻



長岡天満宮之圖



長岡天満宮 11-1 C10001

葛野郡式外古社

祇花園神社

祭神疫神○山城志云在同郡妙心寺西二町呼曰今宮永

承七年五月修御靈會之處共社上申書及繪圖ヲ後ニ附

按ルニ志云今宮社近世仁和寺鎮守ノトナレトモ則

花園村安井村ノ土産神ナレハ蓋シ祇花園神ナルヘ

シ

鎮座

百練抄云永承七年五月廿八日天安寺之東新造ノ神社

ニ行御靈會依可止疫癘御示現也名ケテ曰祇花園社又

京都府

長和四年六月廿日京人花園ノ邊ニ建立神殿祠癘神之純

宣也續古事談言 後冷泉院ノ御時世間ニハガハカマシ

ク時双窓の辺ニ社なつくらハカハツハニシ現ル

兵衛府生時重ニシメテ兵衛府のとも社なつ

御靈會を行ひけ花園社ニシメテ云々

京都府管内山城國高野郡高野三區池上村

鎮座 宇正孫院

今宮社

祭神 今宮大淨神

一由緒

當社之由緒云永業七年正月廿八日天安寺之
東新造之神社行御靈會依可止疫癘

事示現也名々曰祇花園社又長和四年六月廿日

京人花園之造建之神殿祠癘神純室也

續古事類云

後冷泉院乃神世尚々々々かかけりぬ是の

為不社成つてゝ志つ所々々々々示現何々々

之唐府生時重々々々々々唐府の之の之

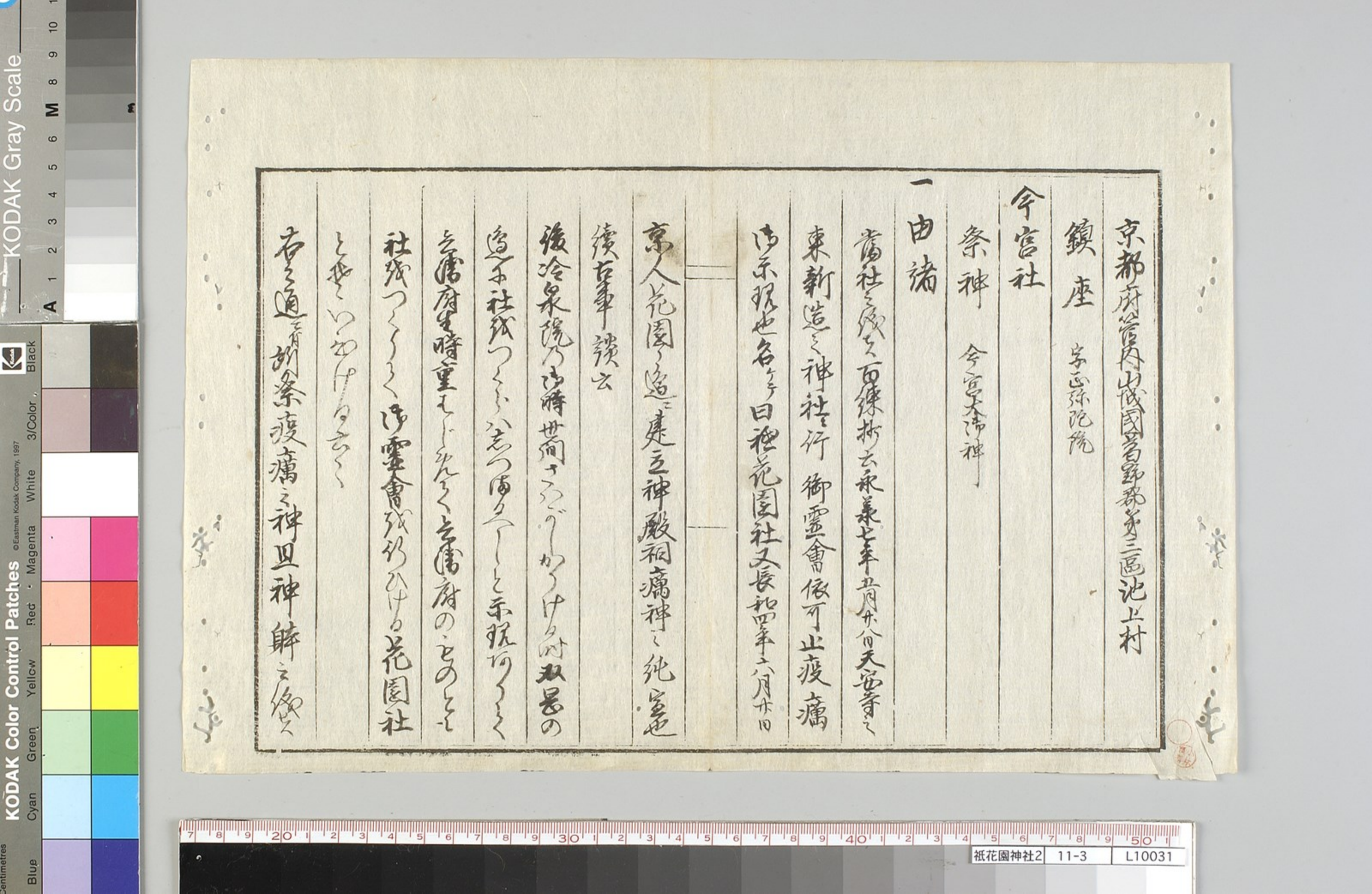
社成つて々々々々々々會成りひける花園社

と云々々々々々々々々々

右之通有別祭疫癘之神且神躰之由也

高野

高野



神石一果禊座有元仁和寺門跡禊守

花園村安井村古産神、此禊座

勸請 年月日不詳

例 祭日九月十六日

但四曆此禊座此禊座年日、十月十日、改改、

社殿建坪

幸社 三坪

未社 榎尾社 七合五夕

未社 葵社 七合九夕

拜殿 六坪

障壁屋 六坪

造儀所 四坪半

一 四後内互列 式友在之下 未社 葵社 後内 四友列 八友

一 四後内互列 式友在之下 未社 葵社 後内 四友列 八友

一 社領朱鳥下之禊座

一 式子十教百之拾壹



但花園村百三十三戸
安井村三拾三戸

一 自茲廳距離

京都府ヨリハ二丁

右之通ニ此座建ル

善野郡第三區花園村自元法上村

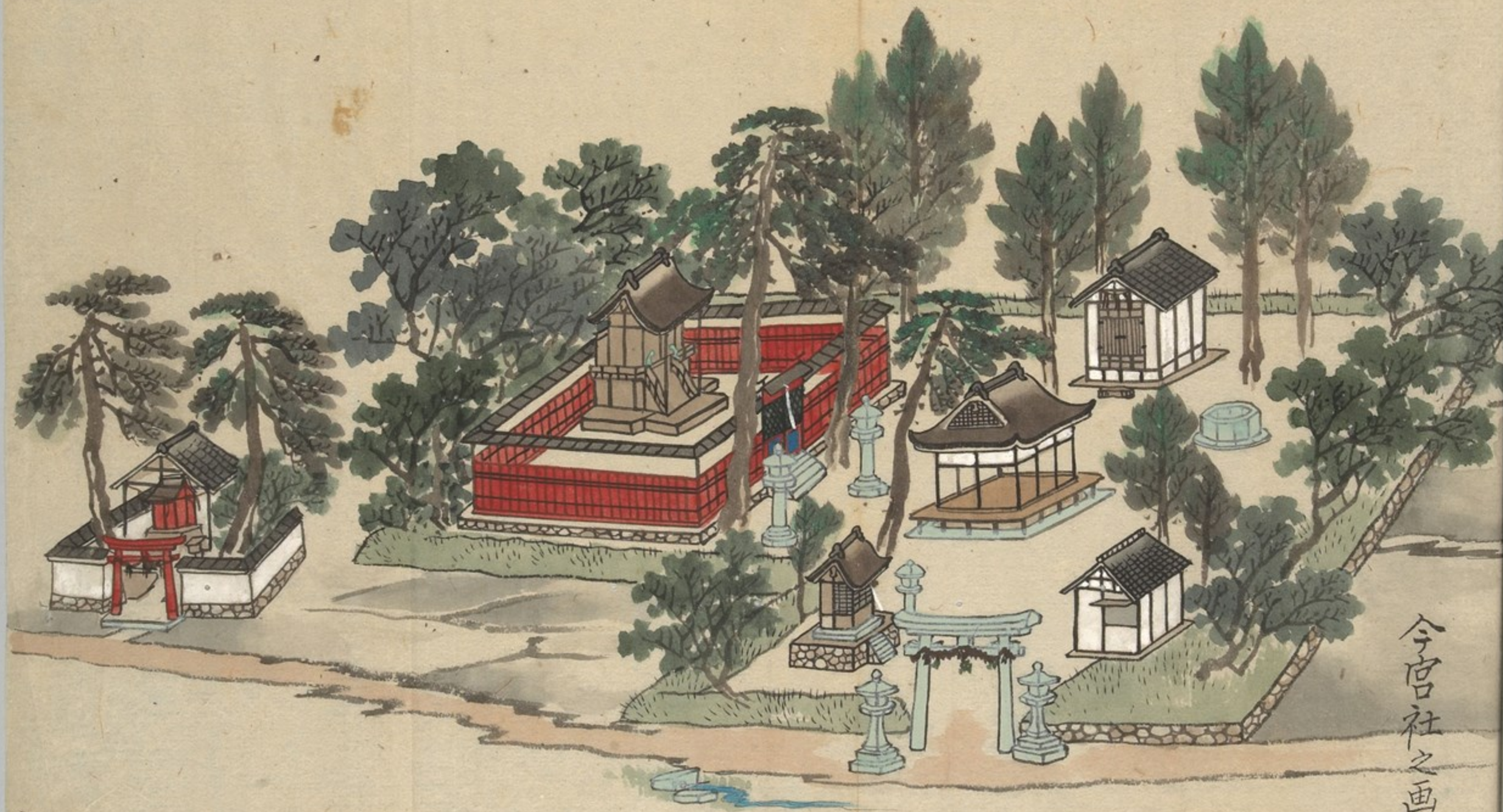
明治八年十一月二日

大長 大兼傳 宣門



京都府権知事

榎村正直殿



今宮社之画圖



今宮社 11-2 C10002



葛野郡式外古社

敷地神社

祭神木華開耶姬命天日鷲命杵幡千千姬命ト云〇同郡

大北山村ニ在ス

其社上申書及
繪圖ヲ後ニ附

按ルニ山城志ニ北山神祠在大北山村類聚國史曰天

長五年爲有天地災變祈北山神即此トミヘタル社ハ

是乎

京都府



KODAK Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10



Black

©Eastman Kodak Company, 1997

KODAK Color Control Patches

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black



敷地神社2 11-4 L10036

京都府管山城國為野郡第三區大北山村
敷地神社明細書

祠堂

内田源五門



京都府管下山城國為野郡第三區大北山村

鎮座 元當邑地頭鹿苑寺境丹之東南三丁地名
天神森

敷地神社 但敷之字ハ訛傳式地下存候

祭神 天日鷲命

本社 木華閨耶姬命 三柱相殿也

枸幡千々姬命

一由緒

當社由緒細記等前々者旧地頭鹿苑寺并社宇トシテ

神宮寺尚亦村長等ニ記錄方之趣兼傳候得共何

分年古追々證記紛失聊考證耳尤ニ書載仕候

右三柱之神上古當社地ヨリ乾之方天神カ岳ニ降臨 天神カ岳ハ今

當郡山之内村白跡
元由降臨年月不詳 然ルニ其頃足利義滿公此北山ニ別業

管攝ニ付鎮護ノ為ニ此式地ハ勸請遷坐ノ由 年月不詳 同公薨

逝後別業ヲ鹿苑寺ト改管後境内之存社故同寺之鎮

守并寺領當村之氏神ト崇祭致未候且往古別業之節

此地境總テ殿舎配列即今ノ社地ハ射場殿射礼式地

故今に至り先蹤ニ由り例年二月十日祭期射礼式相
管申候

右神社ニ属テ往古ヨリ神宮寺管在_ニ村長分_ノ者相加リ
社務尤例年春秋二回之祭祀執行鹿苑寺之門鎮守ノ記
ヲ以古来祭資ハ旧寺領收納物之内出資材中助資差加
祭奠管弁致未候然_ル処去_リ明治元戊辰年八月

御新政神祇局申指令寺門之護持分難依之神宮寺ハ
廢除_ル未社懸_リ村長分_ノ者ニテ更_ニ勢相預_リ居候_ル処

同曆六年八月三十日私更_ニ祠掌拜命奉仕候也

一 勸請 年月不詳

一 例祭 毎年九月廿六日 春祭 二月十日

但 西祭共是迄旧曆相用未候

一 社殿建坪

本社 九坪

攝社 六歩之重
六社神社



末社

敷歩七厘

同

壹分六厘

拜殿

四坪

一旧境内反別

三反敷畝廿六步

一現境内反別

壹反拾貳步

一旧社領朱里印等每市座隸

一氏子戸數

八拾四戸

但氏子大北山村一材限_三法坐隸

一自設廳距離

京都府ヨリ三拾五町

右之通_三法坐隸已上

葛野郡第三區大北山村

作之長
敷地神社祠堂

明治六年十月二日

内田源右丞





書面之通在障毎之仍奥不仕也

在村任頭

丹波市守



京都府権知事

榎村正直殿

城川着野郡大岳村敷地神社之圖



城川着野郡大正村敷地神社之圖



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138 139 140 敷地神社1 11-3 C10003_1





葛野郡式外古社

八幡社

祭神明也○同郡梅ヶ畑平岡村ニ在リ

其社上申書及
繪図ノ後ニ附

按ルニ當社ハ一瀬中村善妙寺諸村之ヲ祭祀ス高燿

山神護寺ノ記曰和氣清麻呂ノ勸請ナリ

京都府

京都府管下山城國葛野郡茅三區
平岡村

鎮座

八幡宮神社

祭神應神天皇

一 由緒

當社之濫觴夕ルヤ高雄山神護寺記
二曰大同四年影向神護寺空海僧都
奏之建立神殿ヲ平岡ノ山崎其後建
久元年再興ス又覺上人又應永十四

年燒失同年依北山准后義滿御願再
造又

又諸社根元曰大同四年十二月十日
自宇佐宮影向神護寺御 于時勅使
從五位藤原公明此時之奇瑞二者白
玉椿一夜花開云云同年奉勸請平岡
之山崎
右當社由緒如斯ニ候神饌灯明等ハ
舊神官別當神護寺ヨリ供御人四名
宮仕三人ヲ以社役人トシ神饌亦献

備セシム梅ヶ畑五ヶ村之産汝神卜
十リ然メ

御一新以来為村社私明治六年當社
神掌拜命之後卜重式日神饌亦無怠
献備仕候事

一 勸請年月 大同四年十二月十日

一 例祭日 八月十五日

但シ是迄旧曆相用來候

一 社殿建坪

本社建坪 四指二坪

未社四座 武内宿称社 二坪半

貴布称神社 七分

若宮八幡宮 七分

地主之神社 七分

御輿屋 四坪半九重

水屋 壹坪二分

拜殿 十八坪

神供所 十坪

一 舊境内及別 不詳

一 現境内及別 志町二及二畝十三分壹厘

京都府権知吏植村正直殿

同郡日返梅ヶ畑平岡村
戸長 牛嶋半九郎

明治八年十月八日 祠掌 吉見資鎮

葛野郡茅三區下邊城村

右之通取調謹而言上仕候以上

京都府ヨリ一里半余

一 自候聴取離

但三梅ヶ畑一円限ニ御座候

一 氏子戸數 百九拾二戸

一 社領朱黒印 無御座候

KODAK Color Control Patches
© Eastman Kodak Company, 1997
Black 3/Color White Magenta Red Yellow Green Cyan Blue
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9



八幡社之圖

京都府権知莫植村正直殿



八幡社 11-4 C10004



葛野郡式外古社

御霊社

祭神火雷神

神祇拾遺ニ火雷神ハ上挂ノ
御霊菅原天神拾芥抄又同ニ

○同郡上

挂村ニ在ス

其社上申書及繪
圖ヲ後ニ附ス

京都府



御霊神社

京都府京都市右京区上桂村
延慶 村ノ有足

系神 仔孫神
古田神

中法 不詳

初請年月不詳

例祭日八月廿日

但是此八月廿日、古加新曆十月廿日、此定也

社殿建坪

中社

五坪五

東社 神明社 一坪五

日 小幡社 一坪五

日 春日社 五坪五

日 靈魂社 一坪五

相所 五坪

相殿 一坪五





京都府南播磨郡植村正直殿

明治八年五月

高野郡多岐郡之植村

伊豆神社同掌

井上政明

日向産長
中村吉長



右之通、湯産長以下

自後、櫻井離、京都府ヨリ、三宮控町

但、与種村、三村、湯、之、湯産長

氏子戸敷、立格、左戸

旧社、版、系、果、平、等、之、湯産長

一、現、境、内、及、別、
六、段、中、之、等、
但、強、有、之、境、之、湯産長

一、入、在、
沙、得、之、合、左、戸

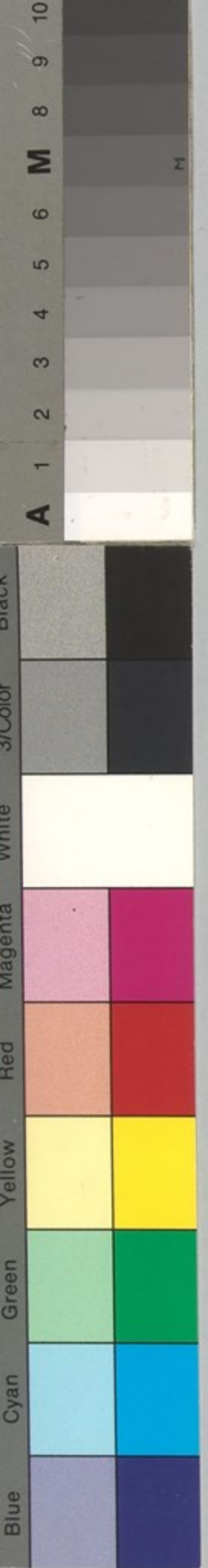
一、湯、産、長、
五、段、之、合、左、戸

山城國葛野郡茨式區上桂村御靈社現圖

古事記所載和事楨村正直殿



御靈社 11-5 C10012





葛野郡式外古社

御霊社

祭神橋大夫

神祇拾遺ニ橋大夫ハ
下挂ノ御霊橋逸勢

其社上申書及
繪図ノ後ニ附

○同郡下挂村ニ在ス

京都府

京都府管下山城國葛野郡美濃區下桂村



鎮座 村内有之

御靈社

祭神

人王五十七代嵯峨天皇御宇
橘経真公御子橘逸勢公

由緒

不洋

勸請年月

不洋
再建文明十一年己亥四月廿二日

例祭日

八月十八日
但是近旧曆相用也

社殿建坪

半坪八歩

下桂村

泮殿

貳坪貳分五厘

泮所

壹坪

御藥庫

八坪七分五厘

御供所

拾七坪五合

旧境内

貳反三畝拾貳歩

境内

三畝拾八歩

社領并朱黒印等無之儀

氏子戸數

百拾九戸
但下桂村一村限り御座候

KODAK Gray Scale



KODAK Color Control Patches
Black 3/Color White Red Magenta Yellow Green Cyan Blue



御靈社2 11-7 L10053



一 京都府迫志里拾下

石之通相違無沙在候以上

石村

明安身七月十日

長所問知事



御出掌

神光景教



下桂村

久事榎村正直代理

京都府権久事國重正文殿



明治八年八月十三日

菅野那美氏画下挂

御霊社舊記寫

祠堂

神光景表

下挂村

家小山城此國高野郡西下
桂村御靈宮は人王四拾九代光仁
天皇同五拾代崇徳天皇此時橘
徑直公乃涉子橘の大后逸擧公
幸るし此代天下才一此能者然中
かく小妙を治する大臣成ふたり
其時代此殿山るもの額もなり

下桂村

公の治形り依之勅定小入
唐成一時之終ハ一ハ小ハ秀也
公ハ不ハ久ハ幸ハも帰ハ朝ハたハれハ良
然ハ九ハ品ハ伴ハのハ氏ハ謀ハ叛ハ此ハ時ハ涉ハ回
意ハのハ子ハ細ハきハくハくハ伊ハ豆ハのハ國ハ
能ハ流ハ一ハたハまハ其ハ時ハ涉ハ皇ハ女ハ涉ハ終ハ志
くハ公ハ終ハのハ遠ハ別ハくハ治ハさハ此ハ郡ハ小ハ
もハやハるハりハ公ハ遷ハ化ハなハるハせハりハ小ハもハ

KODAK Gray Scale

Black

3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

Centimetres

A 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



御霊社5 11-7 L10056

この御身女刺髪は成孝子妙伴凡
と名を法を遠別りつゝき小住
多志の御小もやぢり公王城の在宅
の事常に沙心だふらるる忌をたま
まに信板内裏は沙霊の御告さる
ましくしを御終れ和定ありし
時妙伴女白骨を公をり越く
らせたまふ小別もやぢり公を御霊

下桂村

八社の内小宗たまふ事神社
啓蒙書并拾芥抄小委細小智
け外神徳書見えたり総々八社
の月

- 才一
- 才二 け三社京上御霊
- 才三 京下御霊
- 才四 西ノ園上桂村

KODAK Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10

Black

3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

KODAK Color Control Patches ©Eastman Kodak Company, 1997

7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1

御霊社6 11-7 L10057

才五

橘逸勢公由下桂村宮

才六

肥前國鏡ノ宮

才七

丹羽出羽

才八

北野天神

然於小多やちり公を下桂村小細等
八百五拾年以迄四月十八日由村へ
崇寺り人ふおしく氏人少孝祭の
出と祝と奉是ちり少祭礼を

下桂村

京上御靈同前八月廿八日也依之八
條親王桂光院殿よりと浪水尾院
少在位よりされ鳳輦と下され
みよしとくく少神奉と相勅也
其後八條親王二代目天香院知忠
乃少時社領付させられは三代目
金剛壽院親王より本社の水垣
とたされ鳥井と之させられは五代目

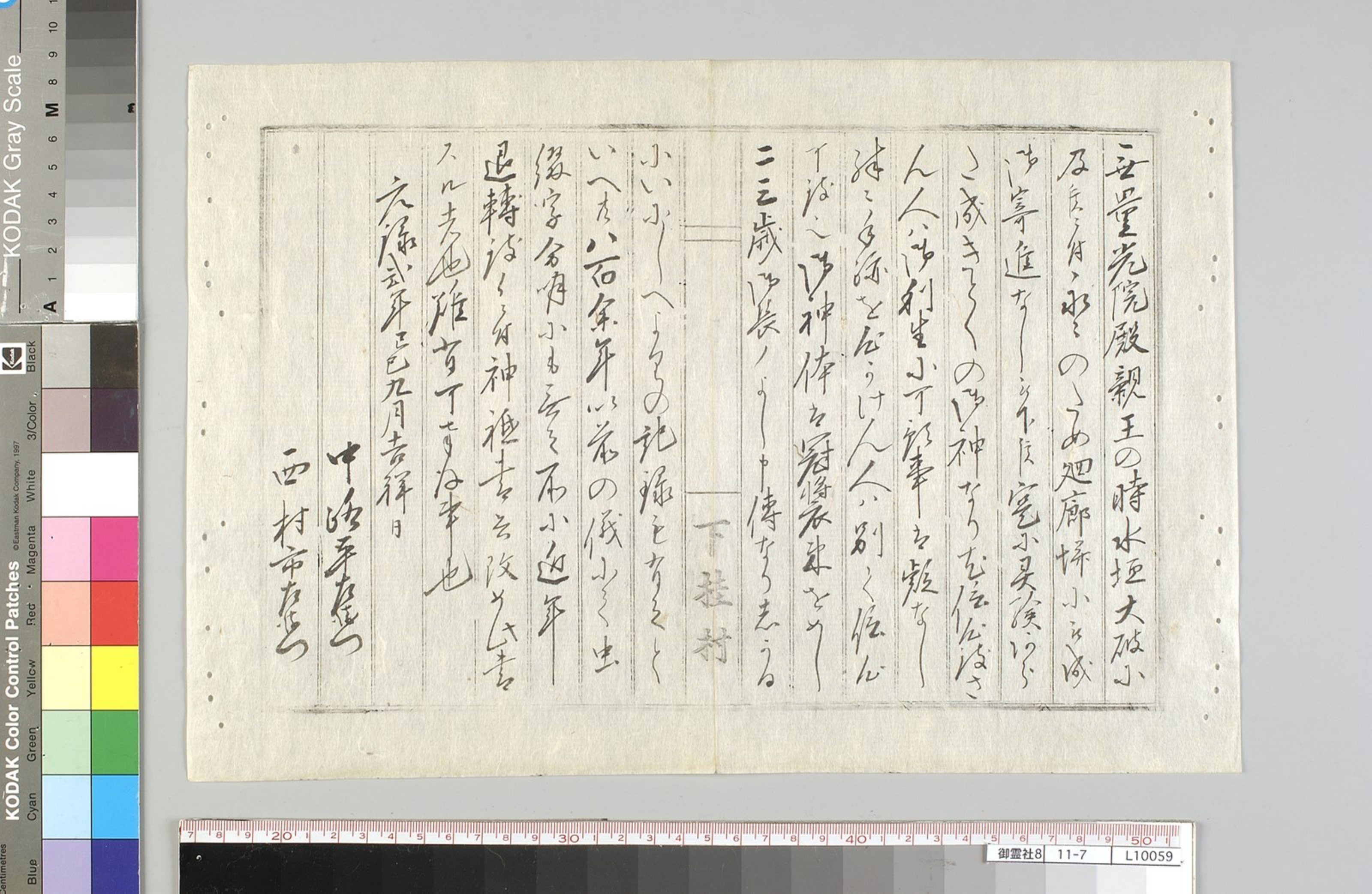
至量光院殿親王の時水垣大破小
及信有、水、の、み廻廊埒小、成
沙寄進なり、
こ成き、
人、沙利生小、
神、
下、
二、

下 菰 村

小い、
いへ、
後、
退、
ス、

元禄、

中、
西、





下 甚 村

惣 宮 中 同 中

寺 尾 九 右 衛 門
中 治 七 年 春

特別當山願榮

花越海守在入道道昌

并惣衆力之事

御靈大明神

奉再興山城國高野郡下挂庄社願事

御選宮外刻

雖然依事不足中路出雲入道重弘

致同心合言奉成就之仍事

下挂村

明應元年正月廿日 敬白

應神天皇葛野川桂里住

藤原兼房卿息女伊勢宅橋

尤大臣逸勢室桂女前後齋也

堀川百首師時卿

桂川より月影のやうな夜を

深にもむ契をばみえり

夫木集后家郷

久々の桂のさきのうのむら

下桂村

月をゆきぬ夕ぐれ乃夜

古今伊勢

久々の中においさる里を

光るのとを彩む屋敷り

御集後鳥羽院

いさるに我は過さん久々の

うらの里乃月のまろく

藤原兼房宅時雨

KODAK Gray Scale

Black

3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

Centimetres



御霊社11 11-7 L10062

春も絶へずとて

とて春も絶へずとて

伊勢宛

月のうち乃桂の人とて

河原の波のういて

女御

梅の花音たふさ

恨くるか情ま

下桂村

上桂御霊社宗道天皇御宗元衛門府知

中桂御霊社遠勢元右衛門府知

源三位頼政

桂女や新松を

とて春も絶へずとて

八條親王家仁郷

源行々神の事々々々々海の
衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣

日本池山別名源志等辨也

下桂村

一今般社堀内山桂堂之礎在事々々
勢心身向古々々々古々古款伊
浼入自唐字取三三三三三三三三
別名古々之通古々古々入山以上

高野神社下桂村

御霊社祠字

後年八月廿日 神光宗光



KODAK Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10



KODAK Color Control Patches ©Eastman Kodak Company, 1997

Centimetres

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black



御霊社14 11-7 L10065

参事 梅村正道代理
京都府権参事 関重正文殿

下 梅村

KODAK Gray Scale
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9

KODAK Color Control Patches
©Eastman Kodak Company, 1997
Black 3/Color White Magenta Red Yellow Green Cyan Blue



6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9 90

御霊社 11-9 | C1000C

葛野郡式外古社

野宮社

祭神天照太神○同郡天龍寺村ニ在

其社上申書及西院村野宮ノ上申書并

繪圖ノ後ニ附

按ルニ當社ハ齋宮ノ故墟ナリ社宇小矮ナリト雖モ

境地頗ル幽邃ニシテ尚古趣ヲ見ルニタル齋宮ノ故墟尚三野

アリ一ハ西院村野宮森一ハ妙心寺ノ東一ハ川端村ノ東有栢川ナリ而テ獨當野ヲ著明ナルモノトス西

院村野宮森ハ玉兼和歌集野謂西四條齋宮是ナリ

京都府

KODAK Gray Scale

Black

3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

Centimetres

京都府管下山城國葛野郡茅三區
天龍寺村

鎮座

野々宮神社

祭神天照皇太神

一 由緒

當社者伊勢齊宮ノ潔齊所タルト延
喜式其他國史ニ見エタリ齊宮ノ始
宗神天皇ノ皇女豐鍬入姫ヲノ齊宮
ニ持セシメ夫ヨリ世々内親王ヲメ

齊宮ニ侍シメ然メ

後宇多天皇第六皇女葦子内親王ニ
至テ中絶ス然トイヘ凡當社領數百
石モ賜リ神饌等嚴重ニテ年々
勅祭ヲ行ハレ候處應仁ノ乱ヨリ
勅祭断絶シ社領總ニ五六石今之愛
宕一山之地稅水茶屋ノ地子稅ヲ以
神饌トシ被宛行候由古老ノ者ヨリ
傳問仕候尢旧神官手元ニ地子稅水
帳等モ有之候其後

後奈良天皇依御願 綸旨ヲ寺勢大
覺寺宮ニ賜之候則綸旨ノ寫左ニ

御綸旨之寫

愛宕護野宮兩社祭禮近年依天下錯
乱於支不似舊式云太不可然所詮以
都鄙之奉加社頭神樂等早加修造至
于神供灯明嚴重致沙汰彌可奉祈一
天恭平万人家樂之旨可令下知給之
由大覺寺准后給仍執達如件

天文廿二年九月十六日

右中將重保

謹上 大綱言法印御房

當社ノ由緒如斯ニテ總ニ五六石ヲ
以テ 御一新造ハ舊神官ヨリ神饌
献備仕候得共 御維新以還上地ノ
後神饌灯明ホハ神祭日ニ村方ヨリ
献備ノ外更ニ無之候処明治六年八
月當社祠掌拜命仕式日神酒洗采ホ
私ノ微力ヲ以テ献備仕候也

一 勸請年月不詳

一 例祭日四月中ノ亥ノ日



但之是迄旧曆相用來候

一 社殿建坪

本社

四坪五分

未社二座

愛宕神社
松尾神社

壹坪
壹分二厘

一 旧境内及別

不詳

一 現境内及別

壹及貳十歩三分八厘

一 社領

愛宕一山之地稅社納仕候如御一新
上地以降無祿尤朱黒印無仕坐候

一 氏子戸數

無之

一 自候聽距離

京都府ヨリ一里半

右之通取調謹テ言上仕候以上

葛野郡第三區下嵯峨村

明治八年十月八日

祠掌

吉見資鎮



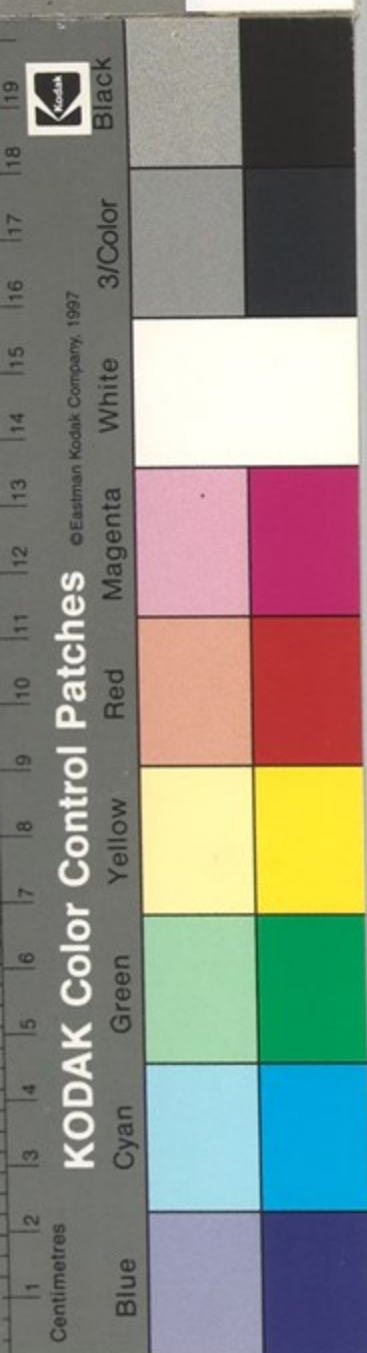
同郡日區天龍寺村

戸長

杉浦市右門



京都府権知吏植村正直殿



野宮之圖

京都府京都市東山区野宮

一
本
未
封
之
至
宮
野
宮
社
之
繪
卷
之
一
部
也
其
中
之
野
宮
社
繪
卷
之
一
部
也
其
中
之
野
宮
社
繪
卷
之
一
部
也



野宮社 11-7 | C10007

京都府管下山椒園葛野郡第壹區西尾村

鎮座 西ノ口

齊言野言神社

祭神

倭姫命
布勢田親王

一由緒

桓武天皇御宇正暦千丁五年夏参内

布勢田親王始て世野言ふ入り世終りて

御渡津所ゆゑと云わりたる事言と止せられ

葛野郡第壹區

三つり長古蹟とのみ傳へり古く六月十二月

鳴る大板、若雀門、こま百官集りて行けられ

たまり若雀門、處よりれ、此野言ふこ

大板行りれ、今、二事此津渡、此

野言ふこ相まうふあゝ行つゝ、保年十月

春日社神も、ふ神徳、此野言、海津、うゝ

うゝて、世行言ふ七日あり、まゝ、遷社、いふ

たまり、保し、春日社、御遷所、と云

KODAK Gray Scale



KODAK Color Control Patches

Centimetres

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10



野宮社5 11-8 L10072



一 御結

年月日

一 御名目

年月日

一 齋後日

年月日

一 御場日

年月日

一 齋社日

年月日

一 氏子之數

無

一 自淺腰距離

九

葛野郡第壹區

一 所 世加地

葛野郡 齊吉區 西尾村

以尾 六年 十月 七日

野宮社 御名目

野宮社 御名目

尾川 安友



京都府 葛野郡 齊吉區 西尾村 正五段



京都府管轄
 葛野郡第壹區西院村
 野宮之神



京都府管轄 葛野郡第壹區西院村 野宮神社



京都府管轄
葛野郡第壹區西院村
野宮之園



東



葛野郡式外古社

車折神社

祭神清原頼業○同郡下嵯峨村ニ在ス
其社上申書及繪
圖ヲ後ニ附ス

京都府

京都府管下山城國葛野郡第三區
下嵯峨村

鎮座

車折神社

祭神清原頼業公

一 由緒

當社縁記曰前右大臣清原頼業公者
博學明哲ノ人ニシテ和漢ノ學ニ通
シ從 後白河帝至後鳥羽帝四朝ノ
御師範ナリ然ノ文治四年四月世終

七十七ニシテ薨シ夕マヒ嵯峨ノ靈
地ニ廟ヲ建ツ 公常ニ櫻樹ヲ愛シ
夕マヒキヨリ 後鳥羽帝櫻大明神
ト神号ヲ下シ賜フ其後 後嵯峨帝
大井川臨幸ノ時御車ヲ輿シ廟門ノ
前ヲ過キ夕マヒニ遷然トシテ車
不進 帝奇異ニ思食土人ヲ召シ供
奉ノ公卿ヲシテ御下問セシムレハ
土人曰コノ眞ニ清原ノ頼業公ノ廟
アリト答エケレハ 帝御車ヲ下リ

御冠ヲ傾ケタマヒケレハ御車元ノ
如ク忽然トシテ裏クナリ 帝還幸
ノ後勅メ 車拆大明神ト神号賜リ
其舊跡下車石今ニ存ス又 公常ニ
石ヲ愛シタマフユノ故ハ石ハ潔白
ニシテ汚穢ニ不深故ニ今 公ニ祈
念ヲカクル輩ハ必社邊ノ小石ヲ拾
フテ家ニ帰テ祭ル其事成レハ又添
一箇ノ石ヲ社頭ニ置ク也ト亦
國史畧曰文治五年四月大外記清原

ノ頼業卒頼業ハ舍人親王ノ後音博
士祐隆ノ子也爲 高倉帝ノ侍讀註

後世建祠ヲ嗟哉
号車折明神

右當社ノ由緒カクノ如シ然而公德
行文材美名ヲ天下ニ施シタマフ
諸書ニミヘタリ然レハ本邦ノ學神
ナリ方今文明ノ城ニ當リテ文學ノ
士ハ知ルトイヘ凡諸人ヲノ學神夕
ルトヲ知ラシメハ必靈驗アラニカ
敬白ス

一 勸請年月不詳

一 例祭日九月十五日

但三是迺旧曆相用未候

一 社殿建坪

本社建坪

七坪八步七厘五毛

未社六座

太神宮
天満宮

七坪五厘

宇賀神社

貳步五厘

曉城天皇
滄海神社

貳坪貳步五厘

稻荷神社

壹坪五步

拜殿

三坪

水

壹坪五步

神役所

廿六坪貳步五厘

一 旧境内及別

壹反四畝七步

一 現境内及別

壹反五畝十八步

一 社領朱黒印

無法座候

一 氏子戸數

無法座候

一 自候聴罪離

無法座候

京都府ヨリ一里余

右之通取調謹而言上仕候以上



葛野郡茅三區下嵯峨村

明治八年十月八日

祠掌

吉見資鎮



同村

戸長

小山弥兵衛

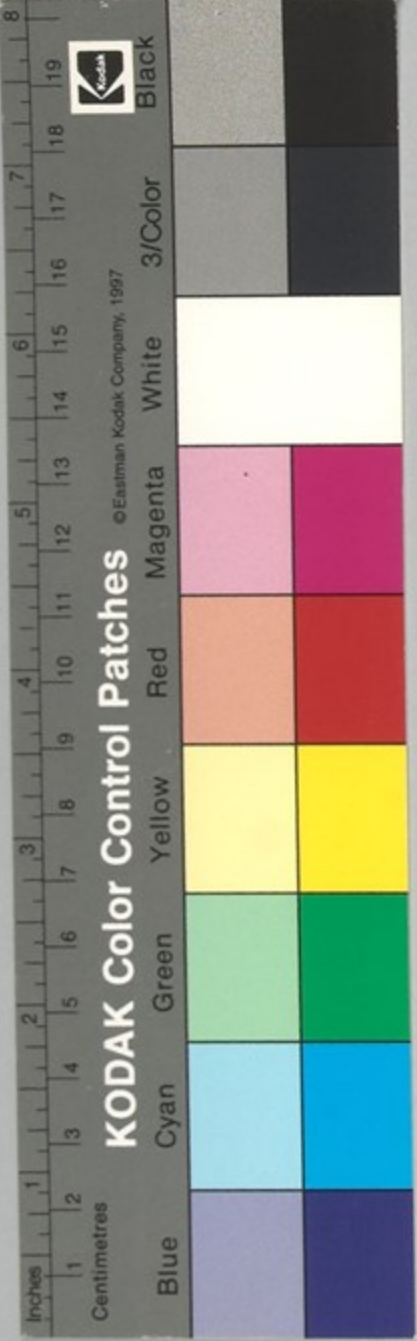


京都府権知夏植村正直殿

©Eastman Kodak Company, 1977

KODAK Gray Scale

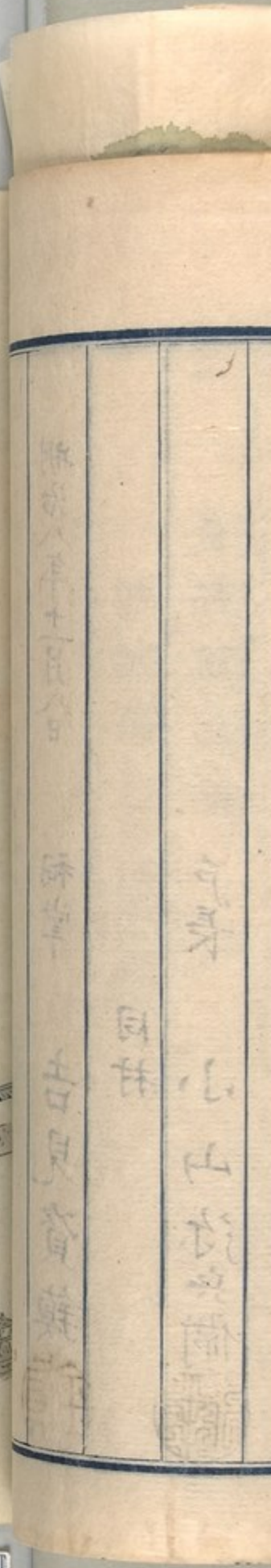
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10



車折神社之画圖



車折神社 11-9 60001C





京都府

六孫王神社
 葛野郡式外古社
 祭神源經基公○同郡八條村ニ在
其社上申書及
 繪圖ヲ後ニ附



KODAK Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10



Black

©Eastman Kodak Company, 1997

KODAK Color Control Patches

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black



六孫王神社2 11-10 L10083

六孫王神社由緒明細書

六孫王神社祠掌

西八條弘量

京都府管下城國葛野郡以條村

鎮座

正一位孫王源經基公神靈

相殿

天照大御神

品院和氣命

本社舊号号称六宮権現做神靈之後ハ

清和天皇第六皇子身純親王清子六孫王

經基公之神廟本社之後森中_ニ有之也

後土御門天皇様御宇應仁乱之節普天安

恭之御祈禱被為仰身_ニ於則清編音顯然

神庫_ニ清_ニ座也

東山天皇様御宇格別御崇敬被為至元

徳十五年十月十八日 勅使務波左衛門尉殿

参向 正一位之位記并 宣命御_ニ納被為至也

中御門天皇様御宇享保九年正月廿一日

櫻所天皇様御降誕被為遊幸中 御袍衣
考社地内上御袍被為遊幸

櫻所天皇様御別御宗敬被為在 御撫拍已下
恒例及上臨時御祈禱屢被為 仰身遊幸
勅願所之稱奉拜戴且御寄附拍考致為
御座其後御公之 天皇様御寄附拍考
是又連綿御座就中

今上皇帝様御元服系御即位考之御天
禮之節別臨時御祈禱被為 仰身且恒例
御撫拍被為是也慶明治四年七月廿一日
遊上被 仰身也

當社社官之儀、文永年中深矣朝公後室
三品禰尾六宮社地下遍照心院ヲ創建被
致也彌波禰尾自筆之置文ニ類然御座
法長ヨリ別當ニシテ則 和修 遍照心院七十三
代當長任持藏蒙 勅許在在也慶明治元

辰年 御一新之御復饒神勸被 仰可
社勢在在如慶明後六年六月更福學
辨 命神勸在在也事

一勸請年祀之後、應永少年七月十日罹
火災、文書不燒、失仕依、庶死院義滿
公、炎上證文及七孫王社敷地括因、到
物被下、遂也于今社庫、現在仕依、社
勸請年祀之後、經下相分、可也、如得共天德

二戊午年十月十日源經基公、薨死、葬此地、在
和年中源滿仲公、被開靈威、社壇奉号
六宮權現之條、世以無其德者、依之祓六
官者、古記之写、初見、也

一祭日之後、八例、歲九月十日、清行也

但之室、永年中、以來、為社系、科現、亦有石、系、柵、竹、子、卒
之、每年、波、家、行、也、也
王政、清、一、新、之後、王、詔、一、一、之、分、口、形、被、下、始、也、然、二、其、後
清、行、之、清、行、除、用、意、依、我、也、也、依、口、日、日、神、系
執行仕也事

一社殿坪數

御奉社 拾三坪

拜殿 貳拾四坪

一境同坪數

現在社地境內 貳千六百五拾七坪 此及別 八及八畝拾七分

旧社地境內 六千九百一拾四坪 此及別 貳町三反貳畝廿四分

旧門前境內 七千二百拾七坪余 此及別 貳町六反拾七分余

當社地、廣公孫王經基公御在世ノ多宅ニシテ

多田湯仲公誕生之地也往昔東ノ大宮通西米

藪通南ノ條通北境ノ少路通ヲ限リトシ惣

構ニ有之由處應永享七年七月十日罹火災

燒失ス依之麻花院義滿公ヨリ敷地境內之

到御于今神庫、現在任其雖然中古世要

之形柄及豪華奈茲移共豊大間秀吉公以兼

明治元年 御一新遷社地境內如斯御

座並事

一氏子尹教、後ハ元西條村中位前當社
氏子、清莊次、慶明、後乃年、順ヨリ、御
祐、爲社、氏子、轉ニ由、同六年三月、曾
後、世、致、爲、清、政、府、上、款、願、仕、爲、共、于、今
清、河、坊、各、清、庄、氏、事
一自該廳、距離、三拾町

右三通、清庄、長、以上

六孫王神社、御、奉、子

明治六年七月

西條、弘、堂



権知事、榎村、正、道、代、理
京都府、権、事、務、司、重、正、文、殿

KODAK Gray Scale



KODAK Color Control Patches
Black 3/Color White Red Magenta Yellow Green Cyan Blue



六孫王神社7 11-10 L10088

KODAK Gray Scale

Black

3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

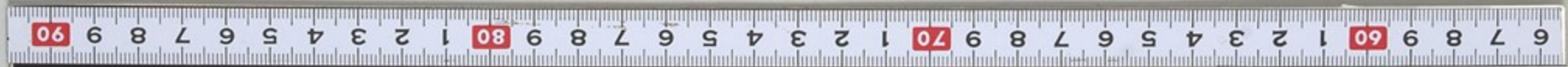
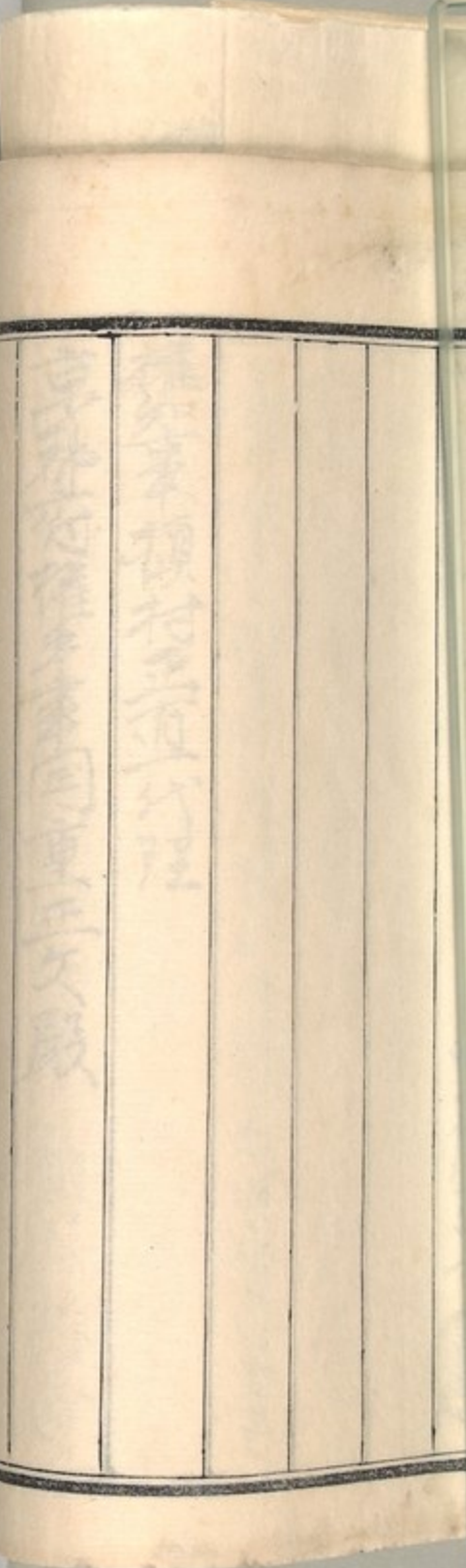
Cyan

Blue

Centimetres



山城國八條村鎮座六孫王神社
葛野郡



2 01001C | 01-11 | 2 六孫王神社

山城國八條村鎮座六孫王神社



1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
KODAK Gray Scale

99 100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138 139 140 六孫王神社 11-10 C10010_1

愛宕郡式外古社

今宮社三座

祭神疫神

社説云大己貴命事代主命稲田姫命十リト

○同郡紫野二在又

諸社根元

記云又説云正曆五年六月廿七日被安置疫神於船岡山長保三年五月七日被遷座疫神於紫野京師衆庶行御靈會被遷此所依夢想也告也延文四年四月社解云當社大明神者永養七年五月十九日依神託被崇敬

神位

諸社根元記云弘安五年後四月廿二日被奉授正一位

祭祀

日本紀畧正曆五年六月廿七日為疫神修御靈會木工寮修理職造神輿二基安置北野船岡山窟令行仁王經之講

京都府

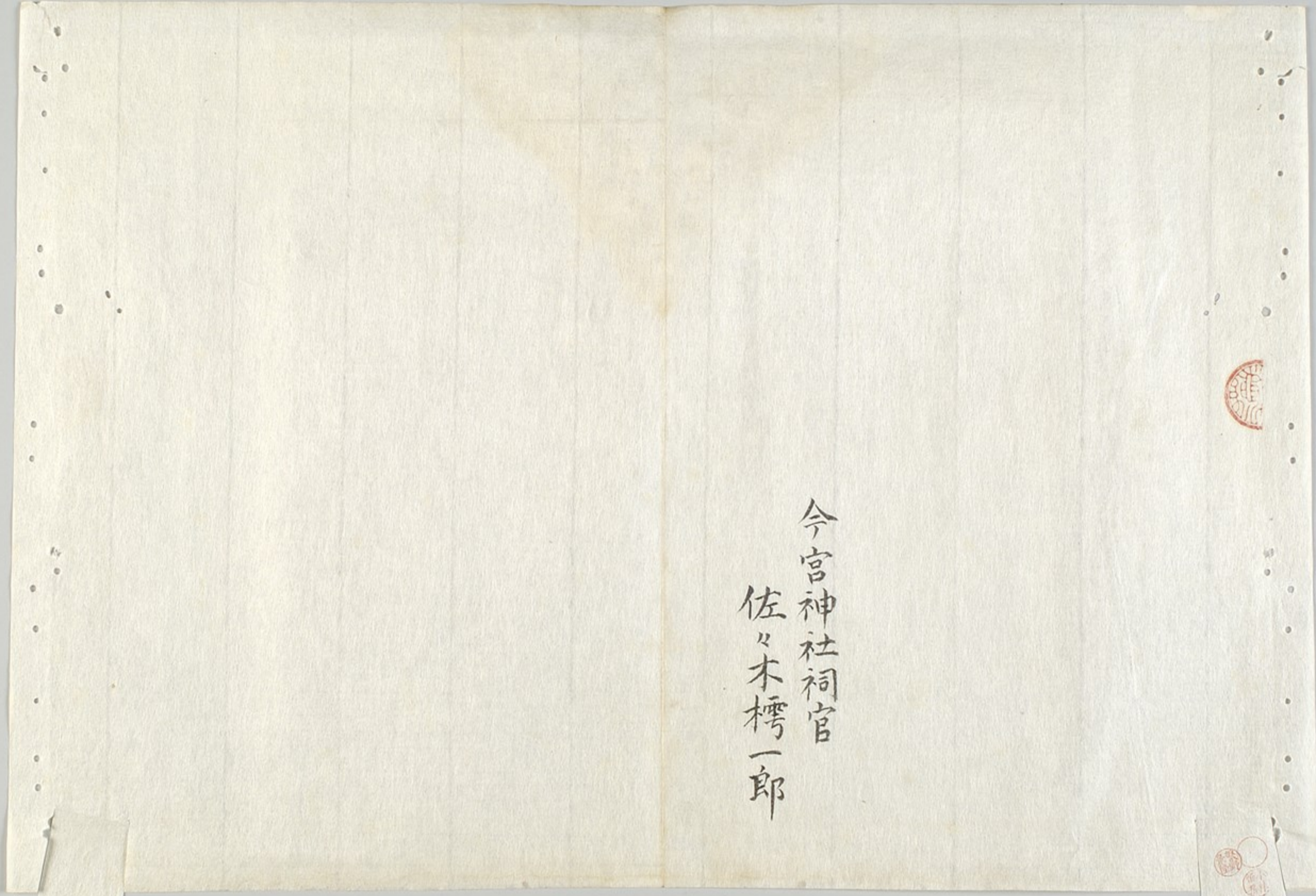
說城中之人招伶人奏音樂都人士女貴持幣帛不知幾千萬人礼了送難海此非朝議叔自卷說諸社根元記云一條院長保二年五月九日庚辰今日於紫野有疫神御靈會事仍兼日神殿三字瑞垣等木工寮修理職所造儲也又御輿内匠寮造之又云寛弘三五九於紫野有疫神祭事件祭長保年中所始行也百鍊抄云久壽二年四月近日京中兒女備風流調鼓笛黍紫野社世彌之夜須礼有勅禁止公事根源野今宮祭也朋是疫病の神也正曆五年長保二年天下去片のなほさる時此神社を祭らる藤氏長能二首を詠して奉てけり也其歌後拾遺小侍とそ兼り軒後拾遺集神世の中はありく侍りける時さとの刀拵宣旨小下祭小片らふ万片はへきを弄ふく片をむいへきと云老人を護侍りきる藤原長社白妙のとよみて

KODAK Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10



KODAK Color Control Patches ©Eastman Kodak Company, 1997



今宮神社祠官
佐々木樗一郎



今宮社3 11-11 L10093

京都府山城國愛宕郡第二區東紫竹大門村鎮坐

此地徃古ヨリ紫野ト称ス

勅撰和歌抄云紫野ハ船岡ノ北ト云云
類聚國史云延曆十四年十月甲子朔
遊獵於紫野

門前ニ川アリ若狹川ト称シ又有栖川
トモ云

山城志曰有栖川一名若狹川源出北
山中經大德寺東船岡山麓大宮街西
至上立賣東折入堀川云云

今宮神社

祭神三座

大己貴命

事代主命

稲田姫命

攝社疫神祠

祭神

素戔嗚尊

由緒

社記曰抑當社者人皇六十六代

一條天皇御宇依天下不靜正曆五年甲午六月

廿七日被安置鎮疫神於船岡被行御靈會也然

長保二年世間不靜依之同年五月九日被行御

靈會依靈夢之告被遷座鎮疫神於紫野兼日神

殿三字瑞垣等木工寮修理職所造儲也又神輿

内匠寮造之被行御靈會被奉神馬京師衆庶行

御靈會云云藤原長能

伊勢守倫寧男
伊賀守從五位上

奉詠二首

倭歌

此倭歌見
後拾遺集

志盧多信能登豫美提久羅乎登利茂知底伊波

比曾曾武留牟羅佐岐廼廼尔

伊麻豫利波阿羅布留箇箇路末志末須那波奈

能美屋古尔屋志盧佐多賣津

社傳云延曆年中ヨリ疫神祠アリ紫野社ト

号ス長保敕祭ノ時始テ今宮ト称セラル

山城志曰在紫野船丘修攘螟蝻之祭見三代

實錄

朝野群載云天養二年閏四月八日散位中原
師光勳文云正曆五年六月廿七日被安置疫
神於船岡山長保三年五月九日被遷坐疫神
於紫野京師衆庶行御靈會件年々天下不靜
仍有此儀被遷此所事依靈夢之告也

親長卿記曰明應五年二月廿二日晴紫野今
宮御神樂兩度行之高松神明七人七日參詣
事申付御一各東向祈禱也今宮有立願事所
勞取直者万匹令寄進造營雖爲何事沙汰云
云申付今宮別當事同八年正月九日同斷

山槐記云治承二年十一月十二日辛未自中
宮召使走來告御產氣候之由中畧着召使并
諸人從者等奉神社四十一ヶ所之一今宮
諸神記曰弘安五年後四月廿二日被奉授正一
位奉行頭左中辨藤原忠光上卿中院中納言具
通卿也

舊神官家系宇多源氏應永年間佐佐木備中守
以後連綿神勤家例叙爵受領敕許ヲ蒙リ從四
位上ニ昇進シ職位世襲スルヲ代甲斐守從
繩ニ至ル御改正ニヨツテ明治六年四月士族

ニ列セラレ更ニ祠官拜命ス從繩今樗一郎ト
稱ス

勸請年月

前ニ詳ナリ

例祭日

五月十五日 但五日出輿於旅所旧例七日

四月十日 鎮花祭 又之ヲヤミクイ祭ト号ス但旧例三月十日

百鍊鈔曰正元元年五月九日壬子紫野今宮

祭也自院廳被騎竹馬長此事中絶年當今年
被興行依疫疾御祈也

康富記曰應永八年五月九日丁酉今日紫野
今宮祭也近衛西洞院獄門内構旅所侍所所
司代又所司代長松奉行也此所新儀也先々
神行之時獄門外ニテ糟神供進之也、獄門
邊御旅所之由申之歟之間如此門内構之條
更無先規隨而大判事章忠并明宣等相付之
處獄門内旅所事不存之由兩人共返答之尤
彼獄内者囚人樓舎之間穢所爭可構之哉不

審不審今年洛中地口ニテ神輿造替也凡此
神疫神也仍一條院御宇長保年中於洛外紫
野祭之也敕宣歟之間年中行事付之也寶德
二年五月九日壬子是日紫野今宮祭如例云
云
康富記曰應永二十九年五月九日乙丑今宮
祭可為十四日云云自去年如此
十四日庚午今宮祭禮也有梓自去年可為今
日之由神主申請致祭禮云云自九日御輿御
旅所有御座者也

宣胤卿記曰文明十三年五月六日庚辰明日
今宮祭禮物忌札泰清卿送之

七日辛丑今日今宮祭也物忌札今朝又寮頭
有宗朝臣送之

文龜二年五月七日戌寅今宮祭如先例云云
永正四年五月七日紫野今宮祭如例云云

得生院右相府記曰永正九年五月七日今宮
祭也有宣卿進物忌

宣胤卿記曰永正十五年五月七日今宮祭如
例

右百鍊抄以下禮儀類典百三十五卷所載
公事根源曰紫野今宮祭九日之禮之疫癘の
神ありて應永二年云下志げうなり
けりし時この神社をまつて祭る事能く二首と
詠志てまつてもろとも冠の被後拾をふゆるとそ
るるけく或人云この年中さつりしゆられハ舟
島のゆふ今宮といふ社を祀るれども神を
まつ後ともむ之ゆくと

日本紀畧曰正曆五年六月廿七日為疫神修
御靈會木工寮修理職造神輿二基

諸神記云長保二五九神輿内匠寮造之

同云寛弘三五九於紫野有疫神祭事件祭長
保年中所始行也世号今宮祭

康富記云應永八年五月九日丁酉今日紫野
今宮祭也中畧今年洛中地ノ口ニテ神輿造
替也

歷代編年集云建曆二年五月十六日瀧口等
於右近馬場走馬是紫野今宮祭後宴去十日
延引之故也

神祇官年中行事云五月九日紫野今宮祭幣

六六

KODAK Gray Scale



KODAK Color Control Patches

Centimetres

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10



今宮社9 11-11 L10099

帛供神物等爲本官之史生等之沙汰調献也
幣帛供神物本官史生持叅也

忠富王記云明應五年五月九日今宮祭口口
也御幣御供七十五足沙汰之公文史生行賢
請取在之

九代畧記云寛弘五年五月九日戊辰紫野御
靈會諸司諸衛調神供東遊走馬等叅向

時慶卿記云文祿二年五月九日今宮祭結構
之由聞工若君御誕生之故旅所已下初テ被
之假御幸道等改ト云云大閣御上洛之沙汰
慥ニ条院ヨリモ被知假

若君トハ秀頼卿十リ御旅所此時ニ再興
ト見エタリ御幸道等改云云トアルニ據
レハ今ノ神輿道ニ改マリシカ

神馬引付帳云文明長享延徳年間神馬御奉
納之事連々相見エタリ中古ヨリ神事科ト
シテ米三石年々御奉納徳川氏ニ至リ同様
十リ

百鍊抄云久壽二年四月近日京中之兒女備風
流調鼓笛叅紫野社世号之夜須禮

〇九

針と字のつらさのつらさをのけしを補つ

たうまひよこまねしねふしつうて度乃神木

しりよ花をなげうしりまきふいさかみ

まじらぬしむねたろし根の玉れうんの花

清貞舎さすけのふくやうさうひて

四季物語云十口あまう昔の比はとやまの

法院ノ宮ニアリト云

歌詞ハ當社于今所藏ス奥書年号糸ハ妙

文詞ホハ高雄山ニアリ右ニ記スル所ノ

カイツリコロヨリカ三所ニ散在セリ序

右やまのい唱歌全一卷高雄山所藏ナリミ

ひらあねのうらみ

ひらあねのうらみ

ひらあねのうらみ

ひらあねのうらみ

ひらあねのうらみ

ひらあねのうらみ

ひらあねのうらみ

ひらあねのうらみ

ひらあねのうらみ

ひらあねのうらみ

ひらあねのうらみ

後



今宮社12 11-11 L10102

社殿建坪

本殿

二拾壹坪五分九厘

幣殿拜所
透廊

拾八坪五分九厘

拜殿

拾貳坪

疫神社

七坪半

同唐門

五分

若宮社

貳坪七分六厘

同拜殿

貳坪二分五厘

末社八座

七坪二分二厘

神庫三字

貳拾九坪

繪馬舎
手洗舎
二ヶ所

四拾坪四厘

門

壹坪六分壹厘

行事小屋

三拾坪

神供所

拾八坪二分五厘

神樂所

七坪

同廊下

三坪

総計 貳百零壹坪三分壹厘

旅所

山城名勝志曰今宮御旅所在大宮通北涯曰

911

下リ松所也元在近衛南西洞院西見康富記

神殿 三坪

拜所 四坪四分四厘

拜殿 拾貳坪

廊下 七坪半

神供所 四坪

御車舎 五坪

神樂所 五坪

居宅 三拾二坪

門守 六坪

手洗舎 壹坪四分壹厘

総計 八拾坪零三分五厘

延曆年中 令奉造立 社記

長保二年五月九日 神殿三宇所造儲

寛弘二年月日 造營 社記

長養元年五月十九日 修造 長秋記

天養二年閏四月八日 加修覆 官吏記

文明七年二月七日 假殿中

明應五年二月七日 造營寄進 親長卿記

天文十三年月日 依台命御造營 社記

〇・ノ・ニ

元禄十五年十一月十五日

將軍德川綱吉公母氏桂昌院光子殿當

社氏子ニ誕生、由緒ヲ以將軍家ヨリ

造營セラル今、神殿並ニ其外祠宇等

即是ナリ

神輿修造、由緒

正曆五年六月廿七日

造神輿二基

日本紀畧

應永八年五月九日

造替洛中地白

康富記

大永五年七月日

造替

官記

文禄二年五月九日

時慶記

豊臣氏聚樂御所ハ當社氏子地ニ付秀乃次

公ヨリ神輿三基並ニ腰輿寺基新造セラ

ル桐章今ニ存セリ

一
境内及別

現在除地寺町貳反貳畝二拾寺步

旧境内四町八反九畝九步

旅所現在除地四百四拾三坪

旧境内同断

〇十二

一 舊社領

高百石 朱印地

内高六拾四石四斗壹升七合 城州紀伊郡石原村

内高三拾五石五斗八升三合 同圃同郡上鳥羽村

言傳フ將軍足利氏ノ時若干之マリト然トモ

其証未審

一 氏子戸数

上京第一區惣テ 九百拾八戸

同第三區惣テ 千百五拾戸

同第四區惣テ 千百五拾二戸

同第五區ノ内 五拾三戸

同第六區ノ内 七百三拾戸

同第七區惣テ 九百五拾五戸

同第八區惣テ 千百貳拾三戸

同第九區ノ内 四百九拾七戸

同第十區ノ内 三百七拾壹戸

同第十一區惣テ 八百八拾壹戸

同第十二區惣テ 七百拾八戸

同第十三區ノ内 七戸

〇・七

同第拾八區惣テ 千三百四拾八戸

同第拾九區惣テ 千零拾戸

本郡第二區東紫竹大門村内 貳百三拾五戸

同西紫竹大門村惣テ 三百九拾五戸

総計壹万千五百三拾九戸

産子地四境南ハ二條城西ハ七本松ニ至ル東
ハ一條以南ハ堀川ヲ限リ以北ハ小川坊西側
ヲ限ル北ハ本郡西紫竹大門村ノ北隅ヲ極ム

一
自談廳距離

凡壹里弱

以上

明治八年七月

今宮神社祠官

佐佐木樗一郎



〇〇〇

KODAK Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10



Black

©Eastman Kodak Company, 1997

KODAK Color Control Patches

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black



今宮社19 11-11 L10109

權知事榎村正直代理
京都府権参事國重正文殿

KODAK Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11



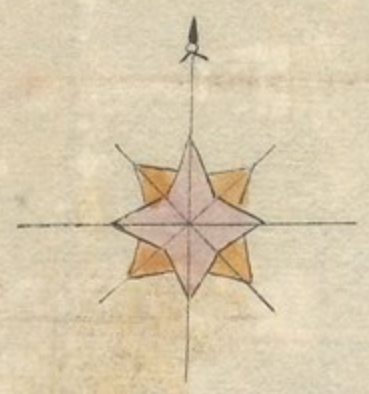
KODAK Color Control Patches ©Eastman Kodak Company, 1997



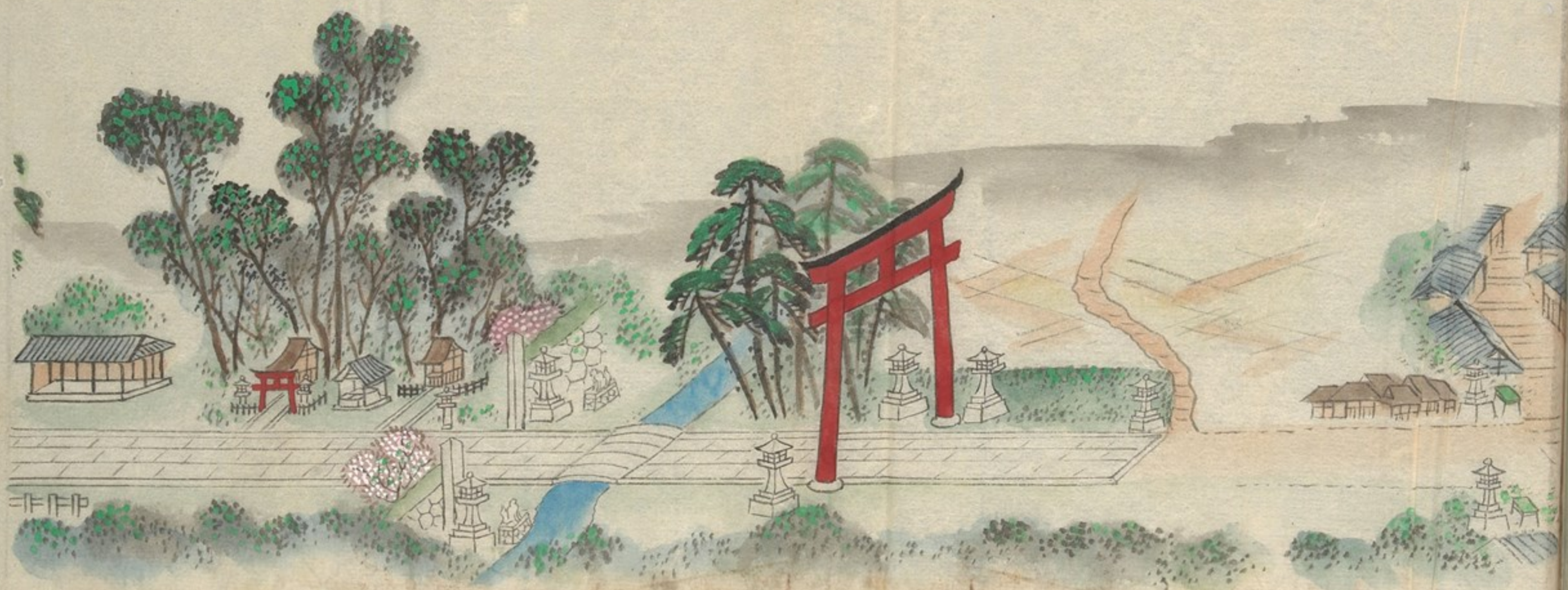
今宮社20 11-11 L10110



山城国愛宕郡紫野
今宮神社



其一



三三三



其二



山國愛媛縣今宮

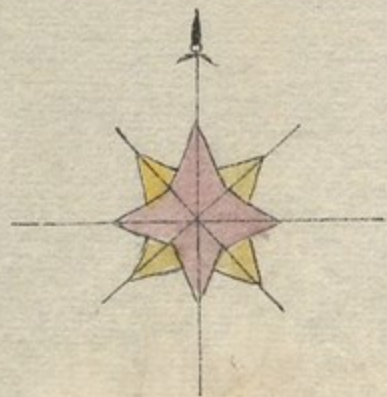
今宮神社



21001C 11-12 其二 今宮神社

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9

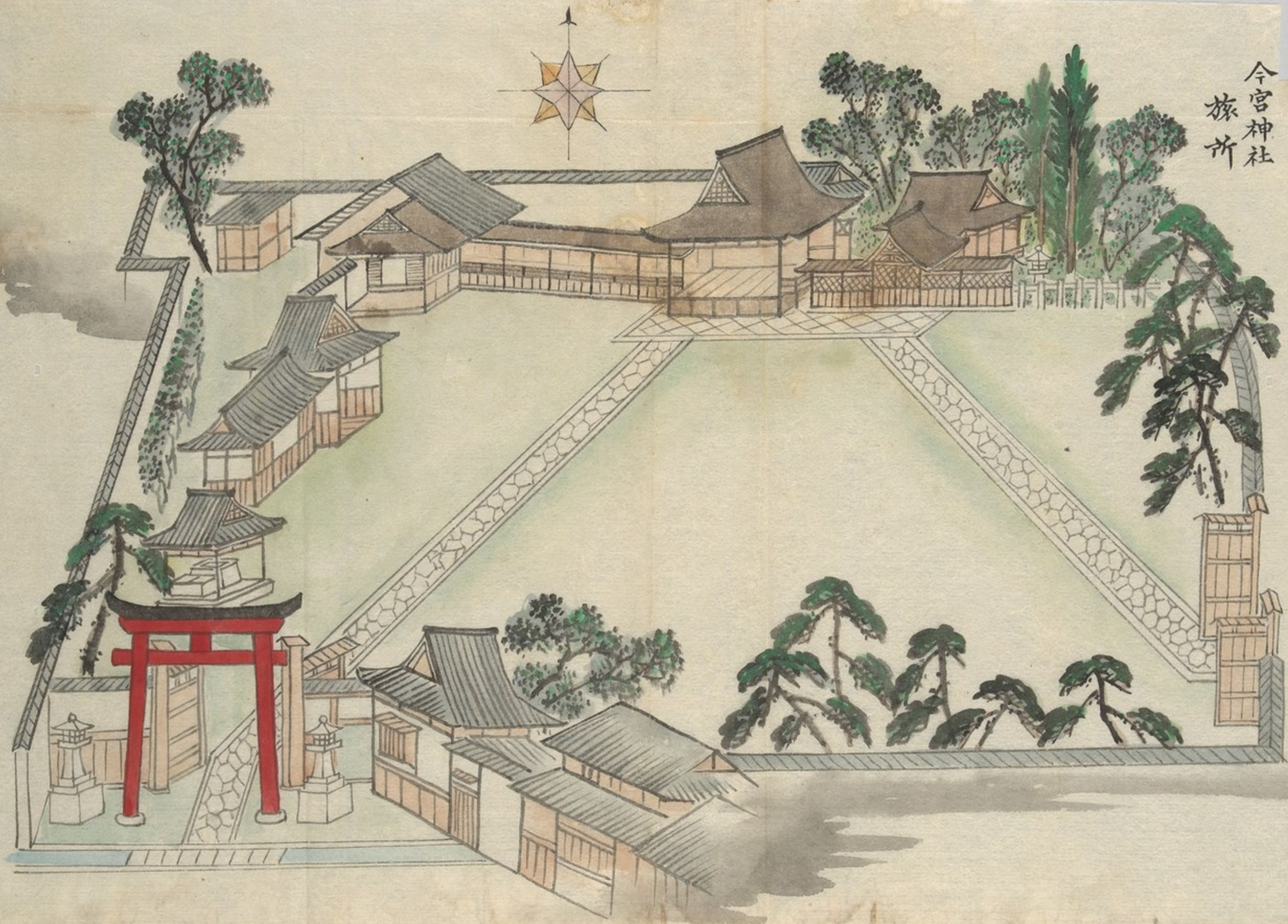
其三



今宮神社 其三 11-13 | C1001C



今宮神社
旅所



愛宕郡式外古社

新熊野社

祭神熊野同躰○同郡新熊野村ニ在ス

其社上申書及繪
圖ヲ後ニ附ス

鎮座

百練抄應徳二年三月四日熊野新宮遷宮日時定也今日
神宝御覽也勅使權中納言清盛卿忝内給宸筆宣命又有
御拜被準太神宮例應保元年十月十六日奉移熊野御体
於新造社檀今熊野是也上皇御願也

行幸

兵範記仁安二年五月三日上皇令忝麓東山新熊野給○

京都府

平家物語長門本云養和元年二月廿五日法住寺殿へ御幸

ナル此御所ハ應保元年四月十三日御移徙有テ後山水

木立カタクノ御シツラヒニ至迄思召ヤウニサセマシ

ツ、新日吉新熊野其迄邊ニ祝ヒ奉ラセ給

勅使

帝王編年記云應保二年壬午今年太上天皇被奉崇新熊
野三月十日被立熊野勅使權中納言清盛藏人治部大輔
行隆山槐記云治承二年十一月十二日奉使新熊野

雜事

後愚昧記云康安元年九月廿三日將軍出宅没落今熊野

KODAK Gray Scale

Black

3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

Centimetres

古文書云。名勝志院廳下新熊野所司等狀云熊野推現者
所引用日域第一之靈社鎮護國家之仁祠也和光之月無陰利生
之風鎮扇目茲去永曆年中之比 禪定仙院凝丹誠之叔
慮摸本社於洛都以散在莊園被寄進被佛聖燈油料云云
養和元年十二月八日 主典代儀部心大江朝臣
院廳定置新熊野社條々 謹奉 叔旨依當社推現者訪
供基於南海之風建近宮於東山之月本山 臨幸三十四
度先蹤雖少 叔襟悃萬千万念精誠猶餘仍就此新祠頻
企忝籠前後相并百五十餘度云云

建久三年正月

京都府

京都府管下山城國愛宕郡第壹區今熊野村

鎮座 字梅森

新熊野神社

稱證誠殿

祭神

伊弉册命

早玉男命

事解男命

天照御神

忍穗耳命

瓊杵杵命

彥火出見命

葺不合命

軻遇突知命

垣山姬命

罔象女命

稚産靈命

由緒

後白河天皇依御志願御建立

後白河天皇院宣

壹通

後鳥羽天皇院宣

壹通

後光嚴天皇宣旨

三通

宣旨

壹通

足利將軍家下文

貳通

橘元一制札

壹通

右別紙記載

百練抄云應保二年三月四日熊野新宮遷宮

日時定也今日神寶御覽也勅使權中納言
清盛卿參内給宸筆宣命又有御拜被
准太神宮例

又云應保元年十月十六日奉移熊野御體於
新造社壇今熊野是也上皇御願也

歷代編年集成云應保二年壬午今年太上
天皇被奉崇新熊野三月十日被立熊野

敕使

權中納言清盛藏人治部太輔行隆
○帝王編年記同之

兵範記云仁安二年五月三日上皇令參籠東
山新熊野給

平家物語云養和元年二月廿五日法住寺殿へ
御幸ナル此御所ハ應保元年四月十三日御移徙
有テ後山水木立カタクノ御シツラヒニ至迄思
召スヤフニサセマシツ、新日吉新熊野其近邊
ニ祝ヒ奉ラセ給

應仁記云新熊野三所ノ宮十二所權現ノ

透廊ニ神樂乙女ハ並居タル

寛文六丙午年十月廿七日牧野佐渡守殿ヨリ

新熊野社再建之儀被申渡候就而者

御寄附有之左ニ

禁裏御所

法皇御所

本院御所

新院御所

女院御所

女五宮

女御御所

此外舊幕府同三家三卿始其餘諸藩ヨリモ

追々寄附有之候ニ付

同十三癸丑年六月當社出来仕候間正遷宮

有之則道師三山新熊野檢校聖護院ニ品

道寛親王ニ御座候段日記ニ在之

舊神官

嘉禎四年三并長吏常住院良尊

後京極攝政子

熊野

三山并新熊野檢校ヲ兼

其后聖護院二品道寬親王檢校ヲ兼

同院家住心院代々別當ヲ兼

天保三壬辰年附屬山伏隆光院江神仕代勤為

致候

元治元甲子年同人男鈴木祥龍相續其儘

致神勤來候處

明治六年六月尾竹往言儀祠掌拜

命仕候

勸請

永曆元年月日不分明

例祭日

四月十五日

社殿建坪

本宮

東西 壹間貳尺
南北 壹間貳寸

建坪貳坪貳合

若宮

東西 壹尺
南北 壹尺八寸

中宮

東西 四尺
南北 壹尺七寸

東宮

東西 貳尺壹寸
南北 壹尺五寸

結宮 合祀

東西 六尺
南北 貳尺五寸

境内反別

三反三畝十步

舊境内 八反七貳步

古説曰往古、東汰石峠限、西大和大路、南

向鳥井、北瓦谷法住寺御所迄境内、由

舊社領

山城國 圓提寺

大和國 正覺寺

和泉國 積川社

摂津國 小屋小林庄 御厩庄 奈佐原庄

近江國 吉富庄 三尾社

美濃國 池田庄 小瀬庄

KODAK Gray Scale

KODAK Color Control Patches



遠江國 羽鳥庄

越中國 立山外宮

安房國 郡房庄

播磨國 賀屋庄 田中庄 下端庄 浦上庄

備中國 万壽本庄 同東庄 同西庄 佐方庄

多氣庄

丹波國 吾雀庄 志万庄

但馬國 八太三方庄

淡路國 志筑庄

安藝國 三入庄

豊前國 彦山

合貳拾八箇所朱墨印等ハ無之候得共

院宣綸旨等御座候

氏子

無之

從該廳距離

四拾町

KODAK Gray Scale



3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

Centimetres

Black



新熊野社8 11-12 L10122



以上

山城國愛宕郡第壹區今熊野村

新熊野神社祠掌

明治八年七月廿九日

尾竹往言



古之通相遠無之仍而與予仕候

戶長 伊藤勘兵衛



權知事植村正直代理

京都府權參事國重正文殿

後白河天皇帝院宣之寫

新熊野社領重書等事

容易部土庫藏之間為
當時之海法勒注日之
鳳章年平亥每八前之古
可備十二社之志祀之
向後常以酒束之紙准皮
反文之小依作取至如件

永德二年正月十二日

左衛門佐藤朝光

院廳下 新熊野所司等

可永停止當社領諸國庄園貳拾捌箇所
死謀救事院事役夫大嘗會存宮郡
行鄉救使字佐使鮎乳牛役造内裏
雜事及臨時國役事

山城國

圓提寺

大和國

正覺寺

和泉國

積川社

攝津國

小屋小村庄

御厨庄奈佐原庄

近江國

吉富庄

三尾社

美濃國

池田庄

小瀬庄

遠江國

羽鳥庄

越中國

立山外宮

安房國

郡房庄

播磨國

賀屋庄

田中庄下端庄

浦上庄

備中國

万壽本庄

同東庄同西庄

佐方庄

多氣庄

丹波國

吾雀庄

志万庄

但馬國

八太二方庄

淡路國

志筑庄

安藝國 三八九

豊前國 彦山

右得彼官司等奉月日解狀備謹考案内
能野權現者日域第一之靈社鎮護國家之
仁祠也和光之月無陰利生之風鎮扇因茲去
永曆年中之以禪定仙院凝丹誠之穀慮模
本社於洛都以散在老園及寄進彼佛聖燈油
物以降訂早霜者既下餘年思 除幸者及

百余度豈非希代之御願乎而近代國寧動死
課件等之或後之恒例神事長日社用兩如々
是也望請 院廳為向後限永代可免除彼課
役之由欲被下 院廳御下文者任申請旨永停
以件等國役無懈忘可令致手貢沙汰之狀如件
所司亦宜承知依件行之敢不可遠失在下

養和元年十月日 番代織部少兵衛朝臣 在列

別當納言兼左衛門將藤原朝臣 朝臣信實推補家朝

權納之太宰藤原朝長 在右 助解忠信藤原朝長 在右

權納之藤原朝長 在右 兵部權少輔藤原朝長 在右

權納之藤原朝長 在右 式部權少輔藤原朝長 在右

權納之藤原朝長 在右 權納之藤原朝長 在右

系藤原朝長 在右

伊豫守高階朝長 在右

内藏頭藤原朝長 在右

右中弁藤原朝長 在右

在御判

後鳥羽天皇院宣之寫

院廳

定置 新修野社條之起請等

一檢校別當供僧以下事

右僧官等且尋本山跡且任年未例殊尚思量

宜令定補供僧以下人數皆守先邊輒勿加增僧侶

KODAK Gray Scale

Black

3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

Centimetres



山位勿宜菴室亦且泉客僧同加憐愍

一阿耨梨事

右供僧夏眾等中如年来撰其久先申事
由可放辭文

一恒例臨時佛事神事等事

右草創之後栢城廻駕每度添潤也每事致
敬肅縱及万代勿疎一事計苑用途宜置領地此上
祠官存謹信社務何凌遲哉亦無 際幸之時

院司等參入監其事

石藏之後朱在院別當以下
可令參向者

一在園事

右件庄之相傳領掌不輸無妨地殊尋搜子細
皆不致寄附也建立之後大小國役一切無動仕然
而申賜起請之 鳳綸可斷向後之案龍若新
監吏有過妨者 必家察我之懇志要之重料
神明憐我之宥慮重其知見万々之帝王皆可
在我之後高世々之國宰何不若我之舊因恩縱

不報海岳之望澤年可疎社壇之神領亦
領家等無指於道避年貢徒及三角年者老道
社使可加催促其上猶致物忘者縱有相傳由緒
可以預不賦社家系勝又仍非據者在家勒法宜
經言之別當以下又不顧社用勿死他事凡社家
相折在領敷地油田注別紙副之

一修理事

右社務之單存例事經雨過風朝巡之除注其
損名隨破且修勿及天破用途有限何存怠慢哉
每年六月會次可請覆勘然而乞始不得暫忘
但逢非常損輒難修道上奏聽裁云神事云
修理若無其勅者宜停社務從肅後昆
采條事燧奉 穀音備當社權現者訪悉基
於南海之風建近宮於東山自本山條幸世四
度先登雖少 穀襟困萬千方念精誠猶餘
仍就此新祠全祭龍前後相并百千餘度

也代々 皇王一人皆賴鎮護万民貴賤共頌利
益潛漸不限百世緒夏未志蒙餘薰是以重立
數箇之起請永為後代之鑒誠雖片言隻辭若
乖此旨雖毫末塵露亦遠此符之者九不之
聖主嚴加教誡十二之格化亦不重證明者我速
澄九品者以佛眼公心金之我暫在三有者以慈
念兮報之 院司等跪奉 教旨勒狀如件

建久三年正月日

赤方紙 別當三位右京大夫藤原朝長 在判

赤方紙 三位高階朝長 在書

法紙 三位右近衛權中將重盛兼權守藤原朝長 在書

空書 造東寺長宗兼護送三位左近衛權守藤原朝長 在書

更光 三位行權朝長兼右近衛督藤原朝長 在書

隆秀 三位行權朝長兼左近衛督藤原朝長 在書

親宗 三位行權中納言平朝長 在書

經方 三位行權中納言藤原朝長 在書



親行

正三位行中納言吉藤系朝臣 在右

通親

正三位行中納言魚左衛門督源朝臣 在

玄孫

正三位行中納言藤系朝臣 在右

光隆

前中納言正三位藤原朝臣 在右

良純

正三位行權大納言兼左近衛守將中宮左近藤原朝臣 在右

初寧

正三位行權大納言兼左近衛守將藤原朝臣 在右

隆憲

正三位行權大納言藤原朝臣 在右

實宗

正三位行大納言藤原朝臣 在右

實家

正三位行大納言藤原朝臣 在右

忠親

正三位藤原

直雅

右大位正三位藤原

安房

左大位正三位藤原



後光嚴天皇宣旨之寫

法性寺敷地滋野者所奉

七月七日御流御新

永代に有御新

可高社也御神

知々御流可奉新

實作之長之可

お初長之御本

光

守子可也

心文元奉御奉御

初然也御奉御



後光嚴天皇宣旨之寫

新熊野社領地之國
御比法厨參分之下地
初初不之相違之由
之下初靴惠給之由
天守下之由
應嘉永三年正月
伴 是日宣旨之寫

同

寫

可了政天下勅續
御新傳志法
云氣物
新熊野社領地之國



宣旨 壹通 御代年号不知

此度の國事大正
 の事は御代年号
 に入らずとも
 其の事は御代
 年号に依りて
 其の事を知る
 事は御代年号
 の事を知る事
 には御代年号
 の事を知る事
 には御代年号
 の事を知る事

足利義澄公下文寫

新熊野領近江國石田郷地預賦

臨修川
寺願

奉任代之清判并當知行之旨社家

領掌不可有相違之由所被仰也

仍執在如件

明應八年八月廿日

前右衛門守

教 位 内

新熊野社掌

足利義晴公下文寫

新熊野社社中由社領揚州南之

庄内湯本寺奉為御社後於此社造

獻進奉之旨奉令之因茲社奉親

如余近洲社為志願奉令社領地

少法付社家願奉之旨奉令社領地

仍執在如件

天文三年五月廿日

左衛門守



河内重朝

赤松左近将軍殿

制札之寫

禁副

新熊野

右高平守軍勢甲乙人亦乱

妨粮以藉怪て令使公共也

以下知り件

永正元年九月日 橘元一

新熊野神社

北
東
西
南

本社

惠宮

若宮

早稲宮

中宮

并殿

物小屋

手洗所



新熊野神社 2 11-15 C10015.2

新熊野神社

北
東
田
學



103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138 139 140 新熊野神社 11-15 C10015_1

愛宕郡式外古社

赤山神社

祭神素戔嗚尊諸神

○同郡修学院村ニ在

又拾芥抄云三

山家要略記云兼安四赤山靈神縁起曰大明神者震且明
神之山神ニ有佛法守護之誓隨慈覺大師垂迹敷岳之西
坂之々依大師遺言貞觀六年造禪院安置一扣鐘寺同十
年始有勅以近江國正稅被造赤山大明神之一間四面神
殿同三月五日安惠座主申叙正四位並申加年分度者六
人之々寛平二年宇多天皇御宇增命内供以赤山明神申
叙正三位云々延喜元年剛赤山明神之詔宣天皇下詣直
被奉授正二位云々天曆二年九月三日攝朝臣直奇謹記
之

神位

正曆四年宣命曰天皇掛畏天台山西麓坐世赤山神亦申

京都府

久大神大唐坐被崇敬給ケルヲ慈覺大師為求法トテ入

唐セシ時途中平祈申ケルニ依テ云々奉授從四位下名

志所
引用

神位

元亨釋書四仁傳曰遺言曰我在唐時之誓創禪院末嘗是我

患也且禪院者為赤山明神所誓也云々諸友徒依顧命建

禪院并神祠於叡山西麓。感衰記赤山慈大師覺歸朝ノ時此

明神赤衣ニ白羽ノ矢負ツ、船ノ上ニ現レ給ヒツ、大

師ヲ被守護ケリ山王ハ東ノ麓ヲ守リ給ヘ我ハ西麓ニ

侍ラニ閑ナル所ヲ好ムニトソ被仰ケル



愛宕郡式外古社

江文神社

祭神不詳○愛宕郡大原郡井出村ニ在ス
其社上申書及繪圖ヲ後ニ附
○拾芥抄云三
十番神江文

京都府

京都府管阜山城國愛宕郡第三區

井出村

鎮座 宇宮山

江文神社

祭神

倉稻魂命

級長津彦命

軒遇突智命

愛宕第三區

護法神社

天満宮社

鹿嶋神社

由緒 不詳

勸請 不相分

例祭日

四月初申日
當今二郡一日相成旧曆九月中

社殿建坪

中殿

梁一間九寸
桁一間二尺七寸



左殿

梁一間一尺
桁一間五寸

右殿

梁一間一尺
桁一間五寸

護法神社 三尺四寸四方

天満宮社 一尺三寸四方

橋結有之 鹿嶋神社 二尺七寸四方

境内及別

東四十七間
西四十二間
南五十二間
北二十二間

新及別

東二十六間
西二十四間
南二十六間
北二十二間

舊社頌 朱黒印等無之

愛宕第三區

氏子戸數

貳百五拾九軒

自該廳距離

三里

以上

KODAK Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10



KODAK Color Control Patches ©Eastman Kodak Company, 1997
Black 3/Color White Red Magenta Yellow Green Cyan Blue

Centimetres



岡崎神社1 11-15 L10143

愛宕郡式外古社

岡崎神社

祭神 見社説可

後續二回附

○同郡第壹區岡崎村三在 其社工申書及

京都府

京都府山城國愛宕郡第壹區岡崎村

岡崎神社

鎮座

祭神

神速須佐之男廼命

真髮振櫛稻田姬命

八皇子

勸請年月 延曆十三年十二月

當社ハ桓武天皇延曆十三年長岡ノ皇居ヲ遷シ今ノ平安城ヲ創造シ玉セシトキ皇子白壁親王二詔シ給セ宮殿ヲ京畿ノ四郊二造リ神速須佐之男廼大神ノ大御靈ヲ齋奉ラシメ給ヒテ永ク京都ノ鎮護ノ大神ト齋ヒ給ヒテ十リ就中陽成天皇ノ御宇元慶元年官幣四十二社ノ中ニ加ヘ玉フ勅使カ位藏人猶又大鷹御鉾寄附アリシナリ其後

KODAK Gray Scale

Black

3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

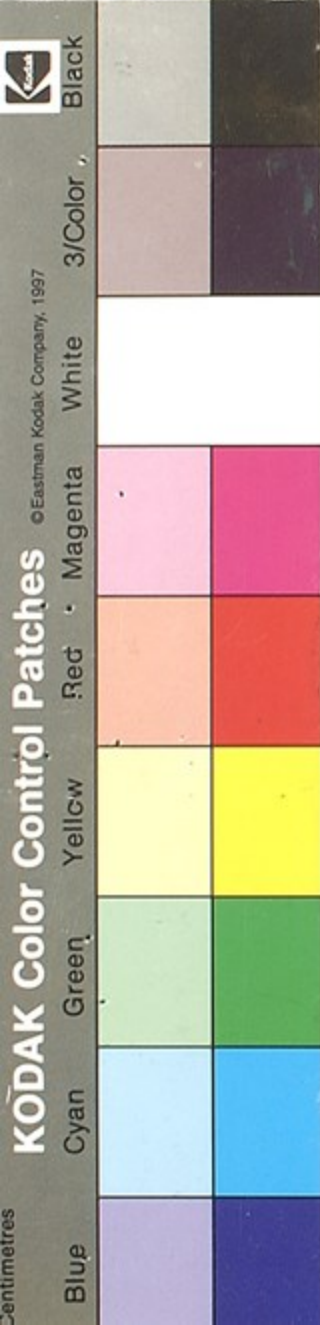
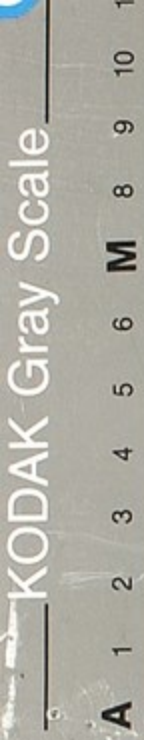


岡崎神社2 11-15 L10144



高倉天皇ノ御宇兼安二年辰六月
 十四日祇園御靈會ヲ御覬有シト
 キ例ノ外二諸社ノ名錡ヲ出セリ
 スヘテ六十本此大鷹錡右六十
 六本ノ内十リ猶又
 高倉天皇ノ御宇治兼二年十一月
 管幣勅使四位殿上人其後
 後花園天皇御宇永亨十年六月十
 日御敬神ノ餘リ御令名ヲ社司二
 下ニ給セテ錢七千匹ヲ給セ右大
 鷹錡ヲ修理セサセ夕マフ亭徳元
 年足利義政公宮殿ヲ再建シ夕マ
 致有之候
 無御座長得共右大鷹錡ノニ存在
 七キ其後兵乱打續キ神寶社記ホ
 當社々地之内
 後水尾天皇皇子
 靈元天皇
 御胞衣
 仁孝天皇皇子
 鎔宮
 御胞衣
 仁孝天皇皇子
 仁孝天皇皇子





恭 亂 亂 亂 亂 亂 亂 亂 亂 亂 亂
大和守 送五位下 陸奥守 送五位下 安藝守 送五位下 近江守 送五位下 伊豫 安藝 伊豫 安藝 伊豫 安藝 伊豫 安藝 伊豫 安藝

清 亂 今大夫
 信 亂 安藝
 胤 亂 伊豫
 政 亂 安藝
 致 亂 伊豫
 辛 亂 安藝
 正 亂 伊豫
 恭 亂 伊豫

九世之孫治郎大夫重胤自嘉慶元
 年當岡崎二移住不重胤曰り九世
 清胤无禄十五年始予神職卜十ル
 上總下總守正四位下子葉今常胤
 舊神官家系大古相分り不申及
 中古神官子葉家系略記

惣官 卽胞衣納り有之及
 右 卽胞衣納り有之及
 右之外社記無御座及二付相分り
 不申及



成胤
信胤
道中下

右之通二卍座也

例祭日

十月廿三日

社殿坪數

東西 五間

南北 四間

此坪二拾坪

境内反別

東西

南北

南ニテ四拾壹間壹尺
北ニテ三拾壹間
東ニテ六拾四間
西ニテ六拾四間或尺

舊境内

寛文年中迄東北江毫町五反斗り
有之及處當時黒谷境内ニ相成也

旧神領無卍座也

旧地頭一条家ヨリ年々現米三石

寄附卍座也



氏子戸數

五百戸余

自該廳距離

凡二十五町余

右之通相遠無之及

岡崎神社祠掌

千葉信胤



權知事榎村正直殿代理

京都府權參事國重正文殿



愛宕郡茅老區
岡崎神社



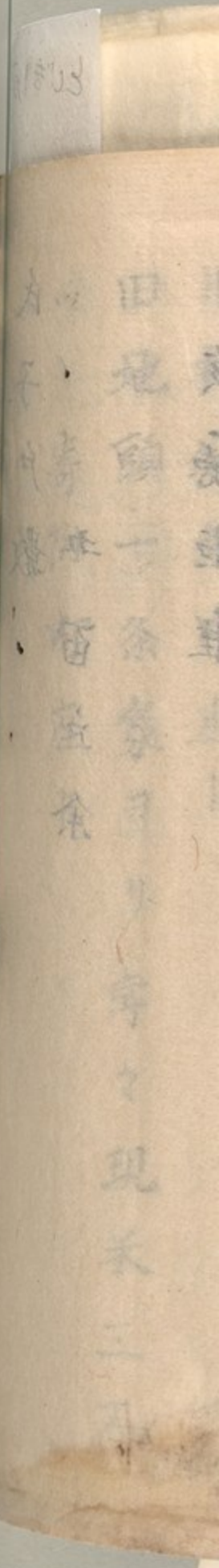
南

西

東



岡崎神社 11-16 C10016



KODAK Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10



KODAK Color Control Patches ©Eastman Kodak Company, 1997
Black 3/Color White Red Magenta Yellow Green Cyan Blue

Centimetres



幡枝八幡宮 | 11-16 | L10150

京都府

愛宕郡式外古社

幡枝八幡宮

祭神

神社説 譽田別命
功皇后ト云

○

同郡第三區幡枝村ニ在社

二申書及
繪圖ノ附



幡枝八幡宮2 11-16 L10151

神社由緒書并繪巻之像存上

今般神社由緒取調并繪巻相添可差出有過日候
違事致承候付テハ由緒并繪巻取調仕別段之通
事差上之以上

幡枝八幡宮祠官

藤木林種



明治七年七月廿九日

前書之通相違母両法及依要事任共以上

右村戸長

古村九郎左衛門



権知事榎村正直代理

京都府権参事四重正文殿

京都府管下山城岡愛宕郡第三區幡枝村

鎮座

字王子山

八幡宮

祭神

譽田別命
神功皇后

貴布祢社

祭神

高麗神
猿田彦神

末社

春日社

氏麿推命
天津兒屋命
經津主命
姫大神

神明社

天照大御神

若宮八幡宮

仁德天皇

車比羅社

大物主命

多賀社

伊弉諾命

厄神社

福津日神

高良社

武内宿禰

境外末社

白山社

伊弉諾命
伊弉册命
菊理姫命

愛宕社

火産靈命
伊弉册命

八幡宮鎮座之後存

人皇五十九代宇多天皇御宇寛平六年男山八幡宮ヲ

城北鉾枝ニ奉移勸請依テ鉾枝ノ祢幡枝ト号ス由且

小笠重盛 當社造遷之儀モ可有兩座歟奉存其由也

當社古記無之不詳歟

奉物

御太刀

一振

一條圓廣作

右八慶長四年八月當社山簾ニ於石清水ト申神水ヲ以
奉步後右御太刀社内ニ納有之儀歟
後水尾院様被為左 殿覽 右御太刀金作拵袋也
御寄附被為 在矣

八月十五日 例祭

社殿建坪 四坪

境内及別 吉及畝步 旧境内及別 三町三畝古步

旧社領 朱印高四石

氏子戸数 悉及岩郡幡枝村ニ於三十戸

當社_ヲ 京都府 御廳 迤里救 吉里半

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9



幡枝八幡宮之園

入皇... 京都府内廳... 延里救土宅里半... 八幡宮



幡枝八幡宮 11-17 C10017